

リアホナ

歴史上の
謙虚で大いなる人々、
16, 62, 65ページ

真の自由を経験する方法、
32ページ

高潔さが危険にさらされると、
40, 48ページ

家族の「自由の旗」を
作りましょう、
60ページ



「どの国にいる
教会の現代の
開拓者にも、
忍耐と
信仰と犠牲の
物語があり、
それらは、
この神の王国の
末日の賛美歌に、
栄光に満ちた
新しい節を
付け加えて
います。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・
ウークトドルフ管長
「御父の信仰」
【リアホナ】2008年5月号、
70 参照



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
世界は現代の開拓者を
必要としています
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
福音を教え、学ぶ

特集

- 14 神には、何でもできないことは
ありません
韓 祥益
53歳で法科大学院に行くということ
は、完全に主に頼って初めて成し
遂げられることだと気づきました。
- 16 開拓者の信仰と勇気——今と昔
M・ラッセル・バラード長老
昔の開拓者は途方もない試練を乗り
越えて生き延びました。わたしたち
も胸の内に証の炎を燃え立たせる
ことができますように。
- 22 奇跡の神——
シェフィールドに住む
スロバキア人の聖徒たち
エリック・W・コピシュカ長老
イギリス・シェフィールドに住む聖徒
たちの信仰が、現代の奇跡をもたら
します。

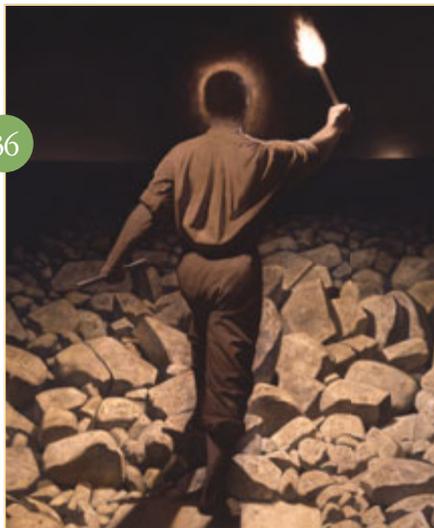
シリーズ

- 8 4月の大会ノート
- 10 わたしたちが信じていること——
主から召される人は、
主によって適格な者とされる
- 12 教会での奉仕——
テレビを持ち上げ、
霊も高めてくれました
ケーシー・クロニン
- 13 『若人の強さのために』の教え——
正直と高潔
- 28 末日聖徒の声
- 74 教会のニュース
- 80 また会う日まで——
「希望の道」を一緒に歩く
ラリー・ポーター・ガント

表紙

表紙——「大好きな話」マイケル・T・マーム画
裏表紙——写真／クレグ・ダイヤモンド、©IRI
中表紙——写真／リチャード・M・ロムニー

36



32 永遠のために生きる

キース・K・ヒルビッグ長老

わたしは皆さんに、永遠に家族とともに日の栄えの王国に住む将来の情景を思い浮かべるようにお勧めします。その深遠な栄光に満ちた卓越した状態を、わたしたちは、今はまだ完全には理解できません。

36 心からの信頼を基とした経験

メリッサ・ゼンテノ

ヤングアダルトが、人間関係で苦勞しながらも、どのように信仰を強めたかについて分かち合います。



こんげつごう なか
今月号の中に
隠れている
リアホナを
さが
搜しましょう。
ヒント——
エリカは
しています。

48

40 信念と思いやり

ジェフリー・R・ホランド長老

いつ判断したらよいでしょうか。ほかの人の意思を尊重しながら、自分の標準をどのように守ったらよいのでしょうか。

44 鏡の中の自分を赦す

デビッド・ディクソン

自分の罪は赦されないと信じ込んでいる人がいるかも知れません。しかし、救い主の贖いは無限であり、すべての人に及ぶのです。

47 油性マーカー

ダニー・ダナウェイ・ローワン

手が痛くなるまでこすりましたが、マーカーで書いた線は消えませんでした。

48 若人の強さのために——

正直と高潔

クリストフェル・ゴールデン・ジュニア長老

50 名誉の帰還

パレリー・ベスト

偶然にかばんの中に入ってしまったブレスレットを見詰めました。返しに行くのを引き延ばしていたら、あとのくらいそのままになっていたでしょうか。

52 聖約の力

聖約とは、当事者間で交わされる約束以上のものです。その約束には、力、強さ、安全、平安が込められています。

54 お気に入りの家庭の夕べ

世界各地の3人の青少年が、いちばん思い出に残っている家庭の夕べを分かち合います。

56 神殿のそばで過ごした夏

デビッド・アイザクセン

スウェーデンのストックホルム神殿が、いちばん近い神殿で、車で10時間かかりました。でも、行ってよかったです。

70



57 かていの夕べの やくわりひょう

この やくわりひょうを 作って、家族で かていの夕べを 計画するのを てつどうすることができます。

58 その子を助けて!

ハイディ・S・スウィントン

トーマス・S・モンソン大管長は少年のときに、人を助けることで最高の気分を味わえることを学びました。

60 初等協会を かていでも——

かぞくは 天のお父さまの計画の いちぶです

62 歴史をたどる旅——

ミズーリ州での試験
ジェニファー・マディー

64 わたしたちのページ

65 とくべつな しょうにん——
かぞくれきしかつどうは
なぜ そんなに 大切なのですか
デビッド・A・バドナー長老

66 思い出の つまった しきもの

ケイ・ティンブソン

いっしょに 話しながら あみものをしたときに、ケイティーと おばあちゃんは、ただの、しきものよりもすばらしい物を 作り出しました。

68 かぞくの お話 こうかんごっこ

この、かつどうを 使って、かぞくに お話を わかちあいましょう。

69 こんにちは。

エルサルバドルのエリカです。

どのように 家族歴史を 楽しくしたかについて、エリカが 分かち合います。

70 ちいさな おともだちへ

81 よげんしゃの ポートレート——

ジョセフ・F・スミス

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ティーター・F・ウーグトル

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリ, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: クレーグ・A・カードン

顧問: シェーン・M・ボーエン, ブラッドリー・D・フォスター, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, アンソニー・D・パーキンス

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワナー

家族・会員支援ディレクター: ビンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ライアン・カー, ラリーン・ポーター・ガート

出版補佐: メリッサ・ゼンテノ

執筆・編集: スーザン・パレット, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エンドワース, マシュー・D・フリットソン, ミンディ・ライ・フリードマン, ローリー・フラ, キャリー・H・ガーフ, ジェニファー・グレース・ジョーンズ, ヒカリ・ロフタス, マイケル・R・モリス, リチャード・M・ロムニー, ポール・バンテンバーク, ローレン・バンガター, ワイルド, ジュリア・ウッドベリ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ビーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ボット, トーマス・チャイルド, ケリー・リン・C・ヘリン, コリン・ヒンクリー, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ, ブラッド・テア

版権および許諾コーディネーター: コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹: シェーン・アン・ビーター

制作: コニー・パウソフ・ブリッジ ハワード・G・ブラウン, ジュリー・ハーデット, ブライアン・W・ギューギ, キャスリン・ハワード, デニス・カービー, キニー・J・ニコルソン, ゲラルド・テイト・ラファティ

製版: エフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレーグ・K・セドウィック

配送ディレクター: スティーブン・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳課長代理: 藤谷繁樹

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名: 末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号: 00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)

普通号/大番号 80円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ iahona.lds.org からお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。
Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: iahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字)クワアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリヤ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, ス페인語, スウヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2013 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

July 2013 Vol. 37 No. 7. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。



フォトイラスト: クレナ・ダイモト ©

「名誉の帰還」50 ページ——この話を読んだ後、家族と一緒に youth.lds.org の "Honesty: You Better Believe It!" というビデオを見てください(このビデオは、英語、ポルトガル語、スペイン語で視聴できます)。この話、またはビデオから学んだことを家族で分かち合ってください。『若人の強さのために』から「正直と高潔」(19 ページ)について読むこともできます。活動として、自分の正直さが試されるような状況を家族で話し合ってください。考えつく状況を書いた紙を箱に入れて、家族一人一人が順番に箱の中から紙を選び、書かれてある状況を読み上げ、そのような状態で正直になるためにはどうするべきかを話します。

「思い出の つまった しきもの」66 ページ——このお話では、ケイティがおばあちゃんに、小さいときに家族と何をするのが好きだったのかを聞いています。おばあちゃんはそのように答えているのでしょうか。それからおばあちゃんは、ケイティに新しいことを教えて、楽しい思い出と一緒に作りました。『家族——世界への宣言』の7段落目を読んでみてください。どのようにすれば、良い結婚生活を送り、すばらしい家族を育むことができると書かれていますか。「思いやり」など、一つのテーマを選んで家族と話し合ってください。このテーマに添って、家族やほかの人々に対して思いやりを示す方法を書き出してみるように家族に勧めてください。その週、もっと思いやりを示せるように目標を立て、次の家庭の夕べでその結果を話し合うことができます。「家族は永遠に」(『賛美歌』187) を歌ってレッスンを終わってもよいでしょう。

あなたの言語で

languages.lds.org で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- | | | |
|------------------------|-------------------------|-----------|
| 安息日, 28 | 教会の召し, 10 | 聖約, 52 |
| イエス・キリスト, 70 | 教会歴史, 4, 16, 62, 80, 81 | 総大会, 8 |
| 戒め, 40 | 悔い改め, 47 | 伝道活動, 22 |
| 教え, 7, 13 | 結婚, 32, 36 | ビショップ, 12 |
| 親の務め, 13, 32 | 裁き, 40 | 標準, 4 |
| 開拓者, 4, 16, 62, 80 | 従順, 40 | 奉仕, 12 |
| 家族, 16, 29, 30, 60, 66 | 正直, 13, 31, 48, 50 | 目標, 14 |
| 家族歴史, 65, 69 | 信仰, 14, 36 | ものの見方, 32 |
| 家庭の夕べ, 3, 54, 57 | 神殿, 29, 56 | 模範, 16 |
| 儀式, 29 | 救いの計画, 30 | 救し, 44 |
| 逆境, 4, 16, 80 | スミス, ジョセフ・F, 81 | |



トーマス・S・
モンソン大管長

世界は 現代の開拓者を 必要としています

多くの開拓者にとって、1847年の旅はノーブーやカートランド、ファーウェスト、ニューヨーク州から始まったものではありません。はるか遠くの地、イギリスやスコットランド、スカンジナビア、ドイツから始まっていたのです。小さな子供たちは、家族や友人、快適で安全な生活を後に残して旅に出るよう親たちを駆り立てた偉大な信仰を完全に理解することはできませんでした。

次のように尋ねた子供もいたことでしょう。「お母さん、どうしておうちを出て行くの。どこに行くの。」

「一緒にいらっしゃい。神の町、シオンへ行くのよ。」

安全な故郷と約束の地シオンの間には、広大な大西洋の荒波が立ちだかっています。この危険な航海の間に彼らが味わった恐怖は、はたしてどれほどのものだったでしょうか。御霊の静かなささやきに促され、純粋な揺るぎない信仰に支えられて、これらの開拓者の聖徒たちは神を信頼して船出しました。

ようやくノーブーに着いた彼らは、すぐに再び苦難の旅に出ることになりました。ノーブーからソルトレーク・シティーまで、たどった道の至る所にサルビアと石で作った墓が並びました。一部の開拓者たちはそのような犠牲を払ったのです。彼らの肉体は安らかに眠っていますが、その名はいつまでも消えることはありません。

疲れ切った牛の歩みは遅く、幌馬車の車輪はきしみ、勇敢な男たちも苦しみながら進み、戦いの太鼓が鳴り響き、コヨーテの遠ぼえが聞こえました。それでも開拓者たちは信仰に鼓舞されながら、また困難な状況下で前進を強いられながら、旅を続けました。彼らはよく次の歌を歌いました。

恐れず来たれ、聖徒
進み行けよ
その旅は辛くとも
恵みあらん……
すべては善し¹

これらの開拓者たちは、主の次の言葉を心に留めていました。「わたしの民は、すべてのことにおいて試みを受けなければならない。それは彼らが、わたしが彼らのために持っている栄光、すなわちシオンの栄光を受けるように備えられるためである。」²

時の流れとともに、わたしたちの記憶は薄れ、無名の墓と涙の跡を残しながら苦痛に満ちた道を歩んだ人々への感謝の気持ちが失われていきます。では、現代のわたしたちにはどのような試練があるのでしょうか。岩だらけの道を進み、険しい山を登り、深い谷を越え、道を切り開き、川を渡ることはないでしょうか。あるいは、襲いかかろうとしている危険から離れて安全なシオンに向かうようにわたしたちを導くあの開拓者精神が、まさに今、必要とされてはいないのでしょうか。

第二次世界大戦以降、道徳の標準は低下の一途をたどっています。犯罪は絶えず増加し、礼節は急速に失われています。災いへ向かう巨大なジェットコースターに乗って、永遠の喜びを犠牲にして東の間の興奮を追い求めている人々が大勢います。こうしてわたしたちは平安を失っています。

わたしたちはギリシャ人やローマ人がどのようにして異民族の世界において隆盛を誇り、そして衰退したか、どのようにして怠惰と安楽な生活にのみ込まれて滅びるに至ったかを忘れ

信仰に突き動かされて

マギー・アール

ずっと昔に開拓者が住んでいた場所である、アメリカ合衆国ネブラスカ州ウィンタークォーターズの地を歩いたときのことは決して忘れないでしょう。神聖な土地だと感じ、まるで野外の神殿を訪れているかのようでした。

涙があふれてきて、視界がかすみきました。一つの像が見えましたが、何の像だか分かりませんでした。涙をぬぐうと、それは一組の男女で、その顔は悲しみに満ちていました。よく見ると、二人の足もとには墓があり、その中に赤ん坊が横たわっていました。

この光景を見て、様々な感情で胸がいっぱいになりました。悲しみ、怒り、感謝、そして喜び。この聖徒たちが感じた苦痛を取り除いてあげたいと思うと同時に、彼らが福音のために払った犠牲に感謝しました。

ウィンタークォーターズでの経験を通して、わたしは次のことを理解しました。天の御父は御自

分の子供たちに福音を与えて、それにどのように応じるかを思いのままに選択する自由をお認めになるということです。あの赤ん坊の両親は、もっと楽な道を選ぶこともできたでしょう。預言者に従い、福音に従って生活するためには、この開拓者たちはたとえそれが子供を葬ることを意味する場合であっても前進しなければなりません。それでも彼らは福音を生活に取り入れることを選び、困難を受け入れました。わたしは聖徒たちが福音に献身し、決意をもって前進したのは、信仰と希望に突き動かされていたからであることを知りました。輝く未来に対する希望と、主は自分たちを御存じであって、自分たちの苦痛を和らげることがおできになるという信仰です。

著者はアメリカ合衆国ノースカロライナ州に住んでいます。



こども

かいたくしゃになろう

モンソン^{だいかんちやう}大管長は、かいたくしゃとは人びとに^い行くべき道を^{ひと}しめす人だと^い言っています。この^え絵の中の子どもたちが、^{せいぎ}せいのために^{たちあがり}立ち上がり、まわりの子どもたちのかいたくしゃになるには^{どんなことか}できるでしょうか。絵の^{した}下にある^{せん}線のところ^{こた}に^か答えを書きましよう。



祈りをもってこの資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で
扶助協会を生かすようにしてください。詳しくは reliefsociety.lds.org [英語] をご覧ください。

福音を教え、学ぶ

イ エス・キリストは偉大な教師で
られました。主はわたした
ちに模範を示し、「群衆の中の女性に
も個々の女性に対しても、路上で、海
辺で、井戸の傍らで、家の中でお教え
になりました。主は愛にあふれた優
しさを女性に示し、女性とその家族
を癒いよされました。」¹

主はマルタとマリヤを教え、「二人
に弟子となって、救い、すなわち二人
から取り去られることのない『良い
方』[ルカ10:42]を受けるようお勧
めにな[りま]した。」²

末日の聖典の中で、主はわたした
ちに「互いに王国の教義を教え合
[う]」ように命じておられます(教義
と聖約 88:77)。教義を教え、学ぶ
ことについて、中央初等協会会長
第二顧問のチェリル・A・エスプリ
ン姉妹は次のように述べています。
「福音の教義を完全に理解するま
での過程は、生涯にわたってたどる
ものであり、『ここにも少し、そこにも少
しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加
えて』経ていくものです(2 ニーファイ
28:30)。」³



学び、研究し、祈るとき、わたした
ちは聖霊の力をもって教えることに
なり、聖霊がわたしたちのメッセージ
を「人の子らの心に」伝えてくださ
います(2 ニーファイ 33:1)。

聖文から

アルマ 17:2 - 3; 31:5; 教義と
聖約 42:12 - 13; 84:85

注

1. 『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』3
2. 『わたしの王国の娘』4
3. チェリル・A・エスプリン「子供が理解するように教える」『リアホナ』2012年5月号、12
4. スペンサー・W・キンボール『わたしの王国の娘』51で引用

信仰・家族・扶助



わたしたちの歴史から

教会の歴代の預言者は、女性には
家庭と教会において教える者となる
重要な役割があることをわたしたちに
思い起こさせてきました。1979年
9月、スペンサー・W・キンボール大
管長(1895 - 1985年)はわたした
ちに「聖文に精通する」ように求め、
次のように言いました。「聖文の知識
を深めてください。ほかの人を見下す
ためではなく、彼らを高めるためにです。
何と言っても、人を養い、教える機会が
多い女性や母親以上に、(必要とする
ときに頼ることのできる)福音の真理
を「心に留めてお[く]」必要のある人
がいるでしょうか。」⁴

わたしたちは全員が教える者であ
り、学ぶ者です。聖文と生ける預言者
の言葉から教えるとき、ほかの人々が
キリストのもとに来るのを助けること
ができます。有意義な質問をして、そ
の後耳を傾けることによって学ぶ過程
をたどるとき、自分が必要としている
事柄に対する答えを見いだすことが
できます。

何ができるでしょうか?

1. より良い教師となるためにどのよう
に準備しているでしょうか。
2. 自分が担当している姉妹たちあかしに証を
伝えているでしょうか。

2013年4月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ〔る。〕……

わたし自身の声によろうと、わたしの僕^{しもべ}たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

2013年4月の総大会を復習する際に、このページ(および今後の「大会ノート」)を使って、生ける預言者と使徒、ほかの教会指導者の最近の教えを学び、生活に取り入れることができます。

大会で話された物語



従順になる

トーマス・S・モンソン大管長

子 供のころ、毎年夏の7月上旬から9月上旬にかけて、ユタ州プロボ溪谷のビビアンパークにある山小屋で家族とともに過ごしました。

休暇中の親友の一人にダニー・ラーセンがいました。彼の家族もビビアンパークに山小屋を持っていました。そこは男の子にとってパラダイスであり、彼とわたしは、川で釣りをしたり、石やそのほかの宝物を集めたり、ハイキングをしたり、高い所に登ったりして、毎日、毎時間、毎秒を楽しみました。

ある朝、ダニーとわたしは、その夜

に溪谷にいるほかの友達と一緒にキャンプファイヤーをしたいと思いました。近くの野原の一部を全員が集まれるように準備する必要がありました。6月から生えていた草が枯れて、とげだらけになっており、わたしたちの目的には適していなかったのです。わたしたちはその背の高い枯れ草を引き抜いて、そこに大きな円形の場所を設けようと思いました。わたしたちは一生懸命草を抜きました。しかしその枯れ草は頑固で、少しずつしか抜くことができませんでした。この仕事を終えるには1日かかるだろうということが分かりました。わたしたちの意欲も徐々に失われていきました。

そのとき、8歳のわたしの頭にすば

らしい解決策が浮かびました。わたしはダニーに言いました。「この草を燃やせばいいんだ。草を燃やして大きな丸い形を作ればいい!」彼はすぐに賛成しました。わたしは山小屋へマッチを取りに行きました。

誤解のないように言っておきますが、当時8歳だったダニーとわたしは、大人の監視のないところでマッチを使うことを禁じられていました。わたしたちは二人とも火の危険について何度も警告されていました。しかし、わたしは、家族がマッチをどこに置いているか知っていましたし、その雑草をどうしても処分しなかったのです。わたしは夢中で山小屋へ走って行き、マッチを数本取り出して、だれも見えないことを確認しました。そして、マッチをポケットに入れました。

ダニーのところへ走って戻りました。問題を解決してくれるものをポケットに入れていたので、とてもわくわくしていました。今でも覚えています。火をつけると、わたしたちが必要としている部分だけが燃えて、その後は魔法のように消えてくれるものと信じていました。

わたしはマッチを石にこすって火をつけ、乾き切った6月の草に火をつけました。まるでガソリンがかかっているかのようにすぐに火は燃え移りました。最初、ダニーとわたしはその雑草が燃



えていくのをわくわくしながら見守りました。しかし、ほどなくして、この火は勝手には消えてくれないということに気づきました。火を止められないことが分かったとき、わたしたちはパニックになりました。火は雑草をたどって山の斜面に向かい始めました。松の木や、そこにあるすべてのものが危険にさらされたのです。

結局、助けを求めに走る以外に選択肢はありませんでした。すぐに、ビビアンパークにいたすべての男性と女性が大きな麻袋を持って走って来て、その火をたたいて消そうとしてくれました。数時間後にやっと鎮火しました。古い松の木々が救われ、火にのみ込ま

れていたであろう家々も救われました。

その日、ダニーとわたしは、難しいけれども重要な教訓を得ました。特に重要な教訓は、従順であることです。

ルールや法律は、わたしたちの身の安全を確保してくれます。同様に主は、わたしたちがこの危険な地上での生活をくぐり抜け、霊的に安全に天の御父のみもとへ戻れるようにするために、導きや戒めを与えてくださいました。■

「従順は祝福をもたらす」『リアホナ』2013年5月号、89-90より

考えるための質問

- わたしたちにルールがあるのはなぜでしょうか。
- 神の戒めに従うことを選ぶことがわたしたちにとって大切なのはなぜでしょうか。
- イエス・キリストはどのような点で従順の模範となられたのでしょうか。

あなたの考えを日記に書くか、ほかの人と話し合ってみてください。

このテーマに関するその他の資料——「福音の原則」『従順』200-206。LDS.orgの「福音のテーマ」の「従順」の項。D・トッド・クリストファーソン「聖約の力」『リアホナ』2009年5月号、19-23

会員宣教師に向けた 預言者の言葉

「わたしは皆さんに約束します。皆さんがだれと話せばよいかを知りたいと祈るとき、名前と顔が皆さんの心に浮かんでくるでしょう。必要なその瞬間に語る言葉が授けられます。皆さんに機会が与えられます。信仰が疑いに打ち勝ち、主は皆さんが奇跡を経験できるように祝福してまいります。」

十二使徒定員会 ニール・L・アンダーセン長老
「これは奇跡です」『リアホナ』2013年5月号、79



4月の総大会開催時の宣教師の状況

伝道中の専任宣教師の数	65,634人
伝道の召しを受けてまだ宣教師訓練センターに入っていない若い男性と若い女性の数	20,000人以上
ビショップやステーク会長との面接の過程にある若い男性と若い女性の数	6,000人以上
新しく組織された伝道部の数	58

トーマス・S・モンソン大管長「大会へようこそ」『リアホナ』2013年5月号、4より

主から召される人は、 主によって適格な者とされる

たいていの教会員には、奉仕の割り当てである「召し」を受ける機会が何度も訪れます。「主はわたしたち一人一人が主の教会で召しを受け、自分たちの才能や影響力を用いて周囲の人々に祝福をもたらすように期待しておられます」と、エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994 年）は言っています。¹

教会の指導者は、自らも奉仕の召しを受けているわけですが、ほかの会員たちが与えられた召しを受け入れて果たすことを頼りにしています。新しい召しはどれも奉仕と成長の機会であり、謙遜に祈りの気持ちで取り組むべきです。教会で奉仕する召しは、主からの靈感を祈り求めた神権指導者によって与えられます。大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は

次のように説明しています。「あなたには神から召されています。主はあなたを御存じです。主は御自分の教会の各責任をだれに任せるべきか御存じです。主〔が〕あなたを選〔ばれたのです。〕」²

召しにおいてわたしたちは救い主を代表し、わたしたちが行う業には、たとえどんなに小さなことに思えても、永遠にわたって重要な意味があります。例えば、献身的な初等協会教師の影響によって、子供がいつか伝道に出ようという気持ちを抱くかもしれません。案内係の親しみのこもったあいさつによって、悩み苦しんでいる会員が教会で歓迎されていると感じるかもしれません。

主はわたしたちが召しを果たすのを助けてくださいます。責任に圧倒され

そうに感じるときには特に主の助けを受けることでしょう。わたしたちが導きを祈り求めるとき、天の御父は靈感によってわたしたちを導き、十分に奉仕できるように祝福してください。主は御自分に仕える者たちを助け、彼らの働きに力を添えられます（教義と聖約 84：88 参照）。トーマス・S・モンソン大管長は次のように約束しています。「わたしたちは主の用向きをもって働くときには、主の助けを受ける特権があります。主から召される人は、主によって適格な者とされることを忘れないでください。」³

主の奉仕の模範に倣い、自分の召しや教会での責任を従順に果たすとき、人生が祝福されて、さらに神に似た者となることができます（モロナイ 7：48；教義と聖約 106：3 参照）。■

詳しくは「歴代大管長の教え——ロレンソ・スノー」（2012 年）第 14 章をご覧ください。

注

1. エズラ・タフト・ベンソン。ディーター・F・ウークトドルフ「自分の立っている場所で持ち上げる」『リアホナ』2008 年 11 月号、54 で引用
2. ヘンリー・B・アイリング「神からの召し」『リアホナ』2002 年 11 月号、76 参照
3. トーマス・S・モンソン「召しの義務」『聖徒の道』1996 年 7 月号、52

全身全霊をささげてください

「主はあなたの力を何倍にも〔してくださいます〕。主の望みは、あなたが全身全霊をささげることだけです。信仰の祈りをもって元気に進んでください。御父とその愛子が、あなたを導くために聖霊を伴侶として送ってくださるのです。あなたの仕える人々の人生の中で、あなたの働きは大いなるものとなるのです。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長 「神からの召し」『リアホナ』2002 年 11 月号、78

手引きやテキスト、教会の指導者の助言など、わたしたちの責任について教え、質問に答えてくれる様々な支援手段に頼ることができます。

主の業を手伝っているとき、わたしたちは主の助けを祈り求めることができ、受けることができます (教義と聖約 84 : 88 参照)。

わたしたちは召しを求めず、適切な神権の権能によって与えられる召しを通常は断りません (モーセ 6 : 31 - 32)。

召しを果たすことによって祝福と喜びが得られます (マタイ 25 : 23 参照)。

すべての召しは等しく重要です。教会には扶助協会会長と同じように託児指導者も必要なのです (1 コリント 12 : 14 - 18 参照)。どこで奉仕するかよりも、どのように奉仕するかが重要です。

質問に答える

どうしてあなたの教会には報酬を受けずに働く聖職者たちがいるのですか。

初めから、主は様々な経歴を持つ普通の人たちの中から御自分の弟子を召してこられました。彼らは主とほかの人々に対する愛のゆえに奉仕しました。例えば、モルモン書の中で、預言者アルマは神権指導者たちを選び、「自分自身の手を使って生活の糧を得るように……指示」しました。

「そして、祭司たちは生活の糧を人々に頼るべきでなく、自分の労働に対して神の恵みを受けるべきであるとされ」ました (モーサヤ 18 : 24, 26。2 ニーファイ 26 : 29 - 31 ; 信仰箇条 1 : 5 も参照)。

今日も同じように、奉仕の召しは、ほかの人々を助け、自分の才能や霊的な賜物を伸ばし、分かち合う機会を与えてくれます。わたしたちは主からの祝福によって、自分たちの行う奉仕に対して十分な報いを受けるのです。

テレビを持ち上げ、霊も高めてくれました

ケーシー・クローニン

わたしの夫はまったく耳が聞こえませんが、福音を深く愛しています。しかし、長年にわたって毎週教会の集会で話を理解しようともがき苦しんできたことから、そのほかの神権者の集会や放送に出席しがらなくなっていました。ワードの会員は親切で、励ましてくれましたが、夫が集会に参加するために必要な技術的支援について十分な理解がなかったため、夫は孤独やもどかしさを覚えることが度々ありました。

新しいワードに転入して間もなく、総大会を迎えました。放送を観ようとするときにどんな問題に直面するだろうかと、夫は気が進まないままに神権部会に行く支度をしました。集会所に着くと、大きなプロジェクターで字幕を表示する方法をだれも知らないことが分かりました。そこでテレビが運び込まれて、礼拝堂の隅に置かれました。ところが小さな問題がありました。テレビを接続するのに必要なコードがプロジェクターに使用されていて、テレビが使えないのです。こうした状況に慣れている夫は、図書室に行ってプロジェクターのコードを探し始めました。幾つかの箱や棚をくまなく探した末、プロジェクター用の短いコードを見つけました。

もう放送が始まろうとしていたので、皆、何かを取り外したり調節したりすることを不安に思いました。夫が見

つけたコードは短く、キャスター付きの台に乗っているテレビには届かなかったため、テレビを低いテーブルに移さなければなりません。夫はテレビ台を動かして礼拝堂を出、近くの部屋に移動しました。そしてテレビを固定しているバンドを外し始め、だれかテレビを持ち上げるのを手伝いに来てくれないだろうかと思いました。そのときです。だれかが部屋に入って来るのを感じました。ビショップでした。二人でテレビをテーブルの上に置きながら、夫は心が軽やかになりました。夫がテレビを調節している間に、ビショップはいすを1脚持って来て、画面の正面に置いてくれました。

夫はビショップの手助けに感謝して握手し、ビショップはドアの方に向かいました。ところが驚いたことに、ビショップはドアの前を通り過ぎて、いすが壁に立て掛けてある所に行きました。そして1脚持って来ると、夫の隣に座ったのです。二人は部会の間ずっと並んで座っていました。

今、夫は熱心に集会に出席しています。ビショップの小さな優しい行いのおかげで夫の霊は高められ、感謝の気持ちを抱けるようになりました。依然として問題が生じることはありませんが、夫はもう孤独を覚えることもありません。キリストの羊飼いの一人の靈感に満ちた行いを通して、夫の物の見方は永遠に変わったのです。■

著者はアメリカ合衆国ミシシッピ州に住んでいます。

様々な障がいに対する支援手段について
の情報は disabilities.lds.org からご覧
いただけます。





正直と高潔

正直と高潔は、「どのような状況に
あろうとも、人がどう思おうとも
常に正しいことを話し、行うことを求
めます」と、七十人のクリストフェル・
ゴールデン・ジュニア長老は今月号の
48 - 49 ページに掲載されている記事
で述べています。

記事では、十二使徒定員会のジョ
セフ・B・ワースリン長老(1917 - 2008
年)が経験した出来事について語られ
ています。大学生のとき、ワースリン
長老はアメリカンフットボールの決勝
戦に出場しました。ボールを受け取
り、前に向かって突き進みましたが、
ゴールラインまであと5センチ届きま
せませんでした。折り重なった選手たち
のいちばん下にいたワースリン長老は、
ボールを押し、前の方にずらすのでは
なく、いつも正しいことを行いなさい
という母親の言葉を思い出しました。
そこでボールをその位置から動かしま
せませんでした。

親自身の模範に加えて、以下の提案
はこれらの福音の原則について子供
たちに教えるうえで役立つでしょう。

青少年に教えるための提案

- 10代の子供と一緒に『若人の強さのために』の正直と高潔についての項を読みます。正直と高潔さがもたらす祝福について話し合ってください。
- 10代の子供に、家庭の夕べで行う「あなたならどうしますか」

というクイズの準備を手伝って
もらおうとよいでしょう。『若人の
強さのために』を参考にして、
正直と高潔さを行いで表す機会
となりそうな状況のリストを作り
ます。家族みんなでクイズに
答え、自分たちの答えについて
話し合ってください。

- トーマス・S・モンソン大管長は正直について繰り返し語っています。モンソン大管長のメッセージを一つ見つけ、家族の人たちに紹介してください。候補として次のような説教があります。

「預言者ジョセフ・スミス——
模範による教師」『リアホナ』
2005年11月号, 67

「幸福——すべての人の願い」
『聖徒の道』1996年3月号, 2

「幸福な人生の探究」『聖徒の
道』1988年8月号, 2

子供に教えるための提案

- 高潔さには自分自身に対して正直であることも含まれます。このことを示すために、家庭の夕べで次のようなレッスンを行うとよいでしょう。子供たちの前におやつを置き、あなたが食べてもよいと言うまで食べてはいけないと伝えます。その後、あなたの目を閉じるか目隠しをして、次のように尋ねます。「お父さんやお母さんが見ていない

正直と高潔に関する聖句

ヨブ 27:4 - 5

箴言 20:7

1ペテロ 2:12

アルマ 53:20

教義と聖約 124:15

信仰簡条 1:13

からというだけで、今このおやつを食べてもいいでしょうか。」個人の祈りなど、だれも見えない所でできる義にかなった行いについて話します。天の御父がいつも見ておられることを子供たちに思い起こさせてください。

- 10代の子供と一緒に作ったクイズを使うか(上を参照)、幼い子供たちに合ったクイズを用意して、何が正直であり不正直であるかに子供たちが気づけるよう助けるとよいでしょう。自分たちの答えについて話し合ってもらいます。10代の子供と幼い子供の両方がいる場合は、10代の子供に、幼い子供がクイズに答えるのを助けてもらうとよいでしょう。■



神には、何でも **できないこと** はありません

ハン サンイク
韓 祥益

約 12年前に、妻と4人の息子とともに韓国からニュージーランドに移住しました。ニュージーランドの韓国入学校で副校長として働いている間に、異なる文化、異なる規定や手続きに慣れようと必死に努力している韓国人に大勢出会いました。そのような人々を助け、ニュージーランドにも貢献したいと思い、弁護士になることが二つの民および国の橋渡しをする一つの方法ではないかと考えました。そこで、自分の決意が正しいか祈りによって確認した後、53歳で法科大学院への入学を決めました。

大変であることは分かっていました。しかし教科書を受け取ったとき、その道は予想していたよりもはるかに険しいものであることを悟りました。どの教科書もあまりに分厚く、内容はわたしの理解を超えているように思われました。10年近く総大会で英語から韓国語への通訳を手伝い、ニュージーランドで言語学の修士課程も修了していましたが、法律関係の表現はまったく異なる種類の英語のように思われました。

初日に学校から帰宅したときには、続けるべき



主は韓祥益兄弟を様々な形で祝福し、韓兄弟が55歳で法科大学院を修了するのをお助けになりました。

か、それとも始める前にやめるべきかを真剣に検討しなければなりませんでした。しかしそんな不安にさいなまれながらも、弱まることのない一つの思いがありました。「すべてを主にゆだねるなら、きっと成功できる。」

神が生きておられ、わたしたちの祈りにこたえてくださることを知っていたので、わたしは神に助けを求めました。聖書の中のある聖句を思い出して、大きな安堵感を得ました。「神には、なんでもできないことはありません。」(ルカ1:37) この聖句から、前進する強さをもらいました。

在学中、困難に直面するときにはいつでも、乗り越えられるように神が道を備えてくださるか、天使を、すなわち助けてくれる人たちを遣わしてくださいました。

あるとき、わたしは課題を終えようと必死に努力していました。最善を尽くしましたが、教員から何を期待されているのかよく分かりませんでした。日曜日になり、わたしは勉強をすべて後回しにして教会の割り当てに思いを集中しました。ステーキ高等評議員として、割り当てられたワードを訪問し、聖餐会で話をしました。集会後、ある兄弟に話しかけられ、教室で見た



ことがあると言われました。知らなかったのですが、その兄弟も法科大学院生だったのです。課題の進み具合を聞かれたので、行き詰まっていると正直に伝えました。すると、わたしの家に手伝いに来ると言ってくれました。もしそのワードに行き行って彼に会っていなかったなら、課題を期日どおりに提出することはできなかったでしょう。その兄弟は神がわたしの祈りにこたえて遣わしてくださった天使だったのです。

最も難しかった科目の一つでは、毎回、教員が2時間ひたすら講義をし続けました。講義の内容に加えて、教員の英語のなまりも理解するのが難しかったので、わたしは許可を得て、復習用に講義を録音しました。ある日、知らない女性からメールをもらいました。同じ科目を履修している者だが、仕事の都合で時々授業に出席できないので、わたしが録音しているものを利用させてもらえないかということでした。

もちろん喜んで録音をコピーしてあげました。わたしは彼女を助けているつもりでしたが、すぐに彼女もまたわたしを助けるために神が用意してくださった天使であることが分かりました。その科目に合格するためには、二つの課題を提出し、3時間に及ぶ試験を受けなければなりませんでしたが、そのクラスメートはわたしが

課題を終え、試験に備えるのを手伝ってくれたのです。彼女の助けがなかったなら、合格していなかったと思います。

年配の学生であり、英語が母語でないという難しさに加えて、ほかにも果たすべき責任があったため、大学院課程を修了するのはほんとうに容易ではありませんでした。仕事や地域社会での責務、教会での召しに多くの時間が取られましたし、自分の最も大切な責任である夫や父親、祖父としての務めに対しても、必要な注意を向けるように努力しました。学業以外にわたしがなすべき事柄について知った仲間の一人からは、ほかのあらゆる責務を考えると法律の勉強をするなんて正気でないと言われました。それでも、「人にはできない事も、神にはできる」という確信がありました(ルカ18:27)。

わたしは55歳で、ニュージーランドの高等裁判所において法廷弁護士兼事務弁護士として認可されました。言葉の壁にもかかわらず弁護士になれたことだけでなく、神が生きておられ、わたしたちの義にかなった祈りにこたえてくださることについてさらに強い証^{あかし}が得られたことに感謝しています。神の助けがあれば、何でもできないことはないと思っています。■

著者はニュージーランドに住んでいます。



努力は 成長をもたらします

「目標を達成するために大変な努力をしなければならぬこともあるかもしれませんが、学ぶためにささげた努力に見合った成長ができます。困難を乗り越えるときに身に付ける力は永遠の来世に持って行くことができます。」

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老
およびクリステン・M・オークス
「学問と末日聖徒」
『リアホナ』2009年4月号, 31



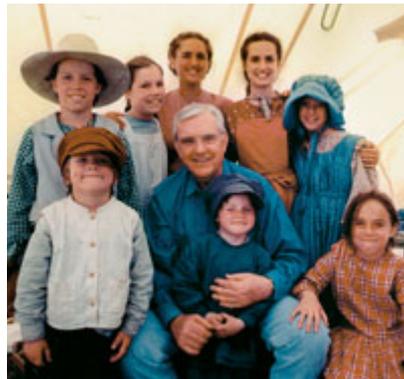
十二使徒定員会
M・ラッセル・
バラード長老

開拓者の信仰と勇気 今と昔

わたしたちは現代の開拓者として
手を携えて歩み、キリストのような生活を送り、正しい主義主張を社会で支持し、
家族と家庭を堅固なものにする必要があります。

末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史を見ると、初期の時代は大きな試練の連続でした。この時代を生き抜いたブリガム・ヤングやヒーバー・C・キンボール、ジョン・テラー、ウィルフォード・ウッドラフ、ロレンゾ・スノー、ジョセフ・F・スミスなどの指導者は、恐らくそのような試練をくぐり抜けてきたからこそ、大平原を横断し、ロッキー山中に教会を建てるという途方もない試練を乗り越えることができたのでしょう。

昔の開拓者は、末日聖徒が達成してきたことを見て満足すると思います。わたしたちは開拓者たちの恩恵に大いにあずかっています。わたしたちが今あるのは、過去の謙遜で偉大な人々が築いてくれた土台のおかげだということを決して忘れてはなりません。



「わたしたちは開拓者たちの恩恵に大いにあずかっています。わたしたちが今あるのは、過去の謙遜で偉大な人々が築いてくれた土台と彼らの勇気のおかげだということを決して忘れてはなりません」とバラード長老（開拓者に扮した若者たちとの写真中央）は言っています。

忠実な開拓者について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）は次のように言っています。「現在を正しく認識し、未来への見識を得るために過去に目を向けるのは良いことです。未来に待ち受けているものが何であれ、それに立ち向かう力を得るために先人の高潔さに目を向けることは良いことです。熱心に働きながらも、この世ではほとんど何も得ることのなかった人々があります。しかし、彼らの夢と初期の計画は進展し、現在わたした

ちはその恩恵にあずかっています。彼らの行った事柄を思い巡らすのは良いことです。わたしたちは皆、そのとてつもない模範を原動力にすることができます。なぜならわたしたち自身も皆、人生における開拓者だからです。」¹



Information

Information regarding the wagon train is available in the following sources: *Journal of the Oregon Pioneer*, *Journal of the California Pioneer*, *Journal of the Texas Pioneer*, *Journal of the New Mexico Pioneer*, *Journal of the Arizona Pioneer*, *Journal of the Colorado Pioneer*, *Journal of the Utah Pioneer*, *Journal of the Nevada Pioneer*, *Journal of the Idaho Pioneer*, *Journal of the Montana Pioneer*, *Journal of the Wyoming Pioneer*, *Journal of the Dakota Pioneer*, *Journal of the Nebraska Pioneer*, *Journal of the Kansas Pioneer*, *Journal of the Oklahoma Pioneer*, *Journal of the Missouri Pioneer*, *Journal of the Illinois Pioneer*, *Journal of the Indiana Pioneer*, *Journal of the Ohio Pioneer*, *Journal of the Pennsylvania Pioneer*, *Journal of the Maryland Pioneer*, *Journal of the Delaware Pioneer*, *Journal of the Virginia Pioneer*, *Journal of the North Carolina Pioneer*, *Journal of the South Carolina Pioneer*, *Journal of the Georgia Pioneer*, *Journal of the Florida Pioneer*, *Journal of the Alabama Pioneer*, *Journal of the Louisiana Pioneer*, *Journal of the Mississippi Pioneer*, *Journal of the Arkansas Pioneer*, *Journal of the Tennessee Pioneer*, *Journal of the Kentucky Pioneer*, *Journal of the West Virginia Pioneer*, *Journal of the Maryland Pioneer*, *Journal of the Delaware Pioneer*, *Journal of the Virginia Pioneer*, *Journal of the North Carolina Pioneer*, *Journal of the South Carolina Pioneer*, *Journal of the Georgia Pioneer*, *Journal of the Florida Pioneer*, *Journal of the Alabama Pioneer*, *Journal of the Louisiana Pioneer*, *Journal of the Mississippi Pioneer*, *Journal of the Arkansas Pioneer*, *Journal of the Tennessee Pioneer*, *Journal of the Kentucky Pioneer*, *Journal of the West Virginia Pioneer*.

信仰をもって従う

ブリガム・ヤングに従って不毛の砂漠を旅するほどの信仰を持っていたのは指導者だけではありません。同じように旅をした、平凡ながらも勇気のある教会員はたくさんいました。教会歴史をひもとくと、オリバー・ハンティントンの両親に関する記録が出てきます。彼らはニューヨーク州ウォータータウンに230エーカー（93ヘクタール）の農場を持ち、石造りの立派な家を構え、頑丈な家畜小屋を2棟持つという裕福な暮らしをしていました。しかし、1836年に家族を連れてその土地を離れ、オハイオ州カートランドの聖徒たちに合流したのです。

すべてを後にして出発した後、オリバーは次のように書いています。「望むものが手に入らない人々を見るのは両親にとってつらいことでした。しかし、パンが欲しいと泣く我が子を見ても何も与えるものがなく、次にいつ食物が手に入るのかも分からない状況にあるのはさらに忍びないことでした。」オリバーは両親が教会の権能ある人々に反対して不平を言ったり愚痴をこぼしたりするのを聞いたことがなく、御業が真実であることを疑うような言葉を口にするのも聞いたことがないと言い、自分の家族には信仰があったことを確信しています。²

この神権時代で教会初のビショップになった人物の娘であるエミリー・パートリッジは、1831年、わずか7歳のときにオハイオ州ペインズビルの居心地の良い家を後にしてミズーリ州ジャクソン郡に移住しました。彼女はそのときのことを回想して記録しています。³その後、程なくして暴徒に家を追われ、家族はクレイ郡への転居を余儀なくされました。結局落ち着くことになった「家畜小屋として使われていた古びた丸太小屋」の様子を彼女は次のように書いています。「大きな部屋が一つと差しかけ小屋がありましたが、これはあまり使われていませんでした。床はほとんどはがれており、ネズミやガラガラ蛇がうようよして、とても安心して住める状態ではありませんでした。居住可能な一つの部屋には大きな暖炉があって、火から1メートルくらいの所に毛布がつるしてありました。2家族合わせて15、6人が毛布の内側に集まって寒さをしのいだのです。というのはひどく寒い天候で、父が火の近くに座って書き物をしているとペン先でインクが凍ってしまうほどだったからです。」⁴



自分の信仰の歩みが
メーン州
スカボローの家から
オハイオ州
カートランドに向かう
750マイル
(1,200キロ)より
はるかに長い旅に
なることなど、
フィービー・カーターは
考えもしませんでした。

家族は後にイリノイ州に移りました。エミリーは、そのときのことを要約して次のように書いています。「状況は厳しく、非常に貧しい生活でした。幾度となく持ち物をはぎ取られ、家を追われ、幾多の病気に悩まされていたのです。」⁵

フィービー・カーターの場合も同様で、1835年にメーン州スカボローからオハイオ州カートランドまで750マイル（1,200キロ）の距離を旅しました。28歳のとき、独りで行く以外なかったにもかかわらず、教会員たちに合流することを決めました。後に彼女はこう報告しています。「友人たちはわたしの決意を聞いて驚きました。それはわたしも

同じでしたが、内なる何かはわたしを駆り立てていたのです。わたしが出発するときの母の嘆き様は堪え難いほどでした。御霊のささやきがなければ、わたしは結局思いとどまっていたに違いありません。冷酷な世の中にこんなふうに出て行くくらいならば、いっそのことわたしが墓に埋葬されるのを見る方がましだと母は言いました。……『フィービー、モルモンの教えが間違いだと分かったら、ここに帰って来てくれるかね』と言った母の言葉が忘れられません。わたしは3度こう答えました。『分かったわ、お母さん。そのときは必ず帰るわ。』……出発の時が来ると、わたしは別れの言葉を言える自信がなかったので、家族一人一人に惜別の言葉を書いて自分の机の上に置くと、階段を駆け下りて馬車に飛び乗りました。こうしてわたしは、子供時代を過ごした愛する故郷の家を離れて、神の聖徒とともに生きることになったのです。」⁶

自分の信仰の歩みが、カートランドに向かう750マイル（1,200キロ）よりはるかに長い旅になることなど、フィービーはこの時点では考えもしませんでした。後にウィルフォード・ウッドラフと結婚し、夫とともにミズーリからノーブー、そして荒れ地を越える1,350マイル（2,170キロ）の旅を経て、大ソルトレーク盆地まで行くことになったのです。

わたしの曾祖父ヘンリー・バラードは、1849年2月、17歳のときに、イングランドのサッチャムで教会に入りました。ヘンリーはアメリカに渡ったときの船代を支払うため、ロレンゾ・スノーとエラスタス・スノーが一部出資する会社と2年契約を結び、大ソルトレーク盆地まで羊の群れを追い立てて行く仕事をしました。ヘンリーはこの盆地に入ったときの



ことを次のように書いています。

「10月のことです。羊を小山から下に追い立て、エミグレーション・キャニオンの入り口をくぐり抜けると、そこは初めて見る大ソルトレーク盆地でした。わたしは『約束の地』を見てうれしかったにもかかわらず、だれかに見られるのではないかとびくびくしていました。辺りが暗くなるまで一日中草むらに隠れていました。着ていた服はぼろぼろになっていて、ほとんど裸同然だったので、人に見られなかつたからです。暗くなってから原っぱを横切つて、明かりのともっている1軒の家に行き、……恐る恐るドアをノックしました。幸いなことに、玄関に出たのは男性で、ろうそくの明かりではわたしの裸を家の人たちに見られることはありませんでした。わたしは旅を続けて両親を見つけることができるよう、着る服を恵んでくれないかと頼みました。わたしはこうして服をもらい、翌日からまた旅を続けて、1852年10月16日にソルトレーク・シティーに到着しました。新しい故郷となる地に無事にたどり着けたことを、心から神に感謝しました。」⁷

今日豊かな祝福を受けていることを思うと、このような気高く勇気のある先祖に対する愛と尊敬の気持ちがわいてきます。

わたしの曾祖母はマーガレット・マックネイルという名前（そうきほ）のスコットランド人女性で、13歳のときに両親と一緒にユタに来ました。大平原を徒歩で旅して牛を追い、ほとんど全行程を、弟のジェームズを背負って歩きました。曾祖母と家族はオグデンの外れに野営しました。彼女は後にそのときのことを自伝に次のように記録しています。

「わたしたちのいた所から原っぱを越えて行くと、小さな家がありました。そして、その家の中庭にはかぼちゃが山になっていました。わたしたちは皆死ぬほどおなかがすいていたので、母はわたしをこの家にやって、かぼちゃを恵んでもらうことにしました。1セントのお金もありませんでしたし、子供の中には動けないほどおなかがすいている子もいたからです。わたしはその家のドアをたたきました。すると、高齢の女性が出て来てこう言ったのです。『どうぞお入り。あなたが来るのは分かっ

ヘンリー・バラードは大ソルトレーク盆地に到着したとき、着ていた服はぼろぼろになっていました。辺りが暗くなってから、「旅を続けて両親を見つけることができるよう、着る服を恵んでくれないかと頼みました。』

たのよ。食べ物を上げるように言われていたの。』女性はわたしに大きな焼き立てのパンを渡すと、すぐに行きますとお母さんに伝えなさいと言ったのです。この女性は間もなく、おいしい夕食を持ってやって来ました。それは、わたしたちが実に久しぶりに食べる見事な食事でした。』⁸

物質面と霊的面の援助

開拓者の話から、165年前に大平原を横断するためには真の信仰と勇気が必要だったことが分かります。手車を引いて旅した開拓者は1847年から1868年までの間に入植した末日聖徒の1割にも満たなかったのですが、彼らは末日聖徒の文化の中で、開拓者時代の忠実さと犠牲を表す大切なシンボルとなっています。

御存じかと思いますが、ウィリー隊とマーティン隊は、ワイオミングに季節外れに早く降った雪に阻まれて動けなくなり、多くの聖徒が寒さのために亡くなりました。わたしは数年前に、家族とともに彼らの足跡をたどる旅をしました。そのときにウィリー手車隊が立ち往生し、寒さと飢えに苦しんだあのスイートウォーター川を見下ろしながら、わたしたち家族は彼らの日記から苦難と救助の喜びをつづった箇所を読みました。ジョン・キスレットはこう記しています。

「太陽が遠くの丘に美しく沈みかけたとき……何台かの幌馬車ほろばしやが……わたしたちの方にやって来るのが見えました。その知らせは療原りょうげんの火さながらに野営地に伝わりました。……叫ぶような喜びの聲が上がり、屈強な男たちも泣き、日焼けしてしわの刻まれた頬に涙がとめどなく流れました。

……その晩、ほんとうに久しぶりにシオンの歌がキャンプに響きました。……飢えは満たされ、神とこのすばらしい兄弟たちへの感謝で心はいっぱいになり、わたしたちは皆一つになって祈りをささげ、眠りに就いたのです。』⁹

現在「エミネンス」と呼ばれる丘の上に立つと、わたしは家族や一緒にいた人たちに証を述べたくなり、こう言いました。「この忠実な開拓者たちは救援隊の姿を見たときに感謝の気持ちに満たされましたが、主イエス・キリストあがなの贖いによる救いは、それよりもはるかに偉大な救済です。」どの教会に所属しているかに関係なく、世の救い主である主イエス・キリストはキリストを信じるあらゆる信仰の中心であり、

全人類を救ってくださった御方であられることを、わたしは強調しました。主は贖いを通して、わたしたちすべての者に今日の希望と、永遠にわたる確信を与えてくださるのです。

現代の荒れ野を克服する

開拓者の苦難は生きる力を生み出しました。それはわたしたちに受け継がれています。信仰と勇気を示すためにほんの少しの身の回り品を馬車や手車に積み込んで1,300マイル(2,090キロ)歩くと言われる人は、わたしたちの中にはまずいないでしょう。わたしたちが今日直面している問題は彼らとは異なります。違う山を登り、違う川を渡り、違う谷を「花咲[かせ]」ているのです(イザヤ35:1)。しかし、克服すべき荒れ野がユタまでのごつごつした岩だらけの道や、先祖の開拓者が通った荒涼とした土地とは明らかに異なるとしても、先祖の試練に比べてわたしたちの試練の方が軽いということは決してありません。

わたしたちの苦難は、罪に浸り霊的なものへの無関心にあふれ、身勝手な行いや不正直、貪欲が至る所で見られる世の中で生きることです。今日の荒れ野とは、混乱と交錯する教えの荒れ野です。開拓者は岩ばかりの尾根や、砂か雪に覆われた山道という荒れ地と闘わなければなりませんでしたが、シオンを目指し、大ソルトレーク盆地に教会を建設することを目指して信仰をもって前進しました。

わたしたちは開拓者と同じように熱意と信仰をもって固い決意で主に仕え、社会のために奉仕する必要があります。神の戒めを守り、神の律法に従い、すべてのことを正直かつ誠実に行うことをおろそかにすることがないように、常に気をつけなければなりません。インターネットにはパソコンやタブレット、携帯電話からごく簡単にアクセスできますが、そこに潜む悪のわなにはまることのないようにしなければなりません。こうしたことに気をつけていないと、ルシフェルは弱みに付け込んでわたしたちの決意を鈍らせ、信仰や、主と人々に対する愛を損なおうとしましょう。すると、わたしたちはこの世の荒れ野の中で道を踏み外してしまうのです。

この世の誘惑や悪に負けないようにするためには、現代を生きる真の開拓者としての信仰と勇気が必要になります。



エミリー・パートリッジはそのころのことを次のように述べています。「状況は厳しく、非常に貧しい生活でした。幾度となく持ち物をばき取られ、家を追われ、幾多の病気に悩まされていたのです。」



わたしたちは現代の開拓者として手を携えて歩み、キリストのような生活を送り、正しい主義主張を社会で支持し、家族と家庭を堅固なものにする必要があります。

真の信仰のある人は「何をすればいいですか」ではなく、「何かもっとわたしにできることはありませんか」と尋ねるものです。神の御霊によって信念が魂に固く結びつくと、信仰はわたしたちに行動を促す力となり、あらゆる思いや言葉、行いが天に向かうようになります。わたしたちは先人のように、確信をもって力と導きを祈り求めます。これこそが、信仰を込めて一歩ずつ歩むということなのです。わたしたちの先祖の開拓者もそうでした。わたしたちも今日、同じように歩まなければなりません。わたしたちは開拓者の歩みを進めたその同じ精神を、子供にも、孫にも、伝えていかなければならないのです。

わたしたちが家族を導くうえで常に神の助けを求め、今日の開拓者として手を携えることができますように。両親や祖父母、先祖を尊ぶことの大切さを過去から学び、彼らのように力と勇気をもって未来に立ち向かっていくこと

ができますように。そして、主イエス・キリストの生き方と働きがわたしたちの心と思いの中で明るい炎となって輝きますように。末日聖徒の開拓者が強い証をもって生き抜いたように、わたしたちも胸の内に証の炎を燃え立たせることができますように。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー, "The Faith of the Pioneers" *Ensign*, 1984年7月号, 3
2. オリバー・B・ハンティントン, *Oliver B. Huntington Diary and Reminiscences*, 1843 June - 1900 January, 26 - 28 参照
3. エミリー・D・P・ヤング, "Autobiography," *Woman's Exponent*, 1884年12月1日付, 102 参照
4. エミリー・D・P・ヤング, "Autobiography," *Woman's Exponent*, 1885年2月15日付, 138
5. エミリー・D・P・ヤング, "Autobiography," *Woman's Exponent*, 1885年8月1日付, 37
6. フィービー・カーター・ウッドラフの言葉, オグスタ・ジョイス・クロッチェロン, *Representative Women of Deseret* (1884年) 35 - 36 で引用
7. ヘンリー・バラードの言葉, O・クロックストン編, *Henry Ballard: The Story of a Courageous Pioneer*, 1832 - 1908 (1994年) 14 - 15 で引用
8. マーガレット・マックネイル・バラードの言葉, スーザン・アリントン・マドセン, *I Walked to Zion: True Stories of Young Pioneers on the Mormon Trail* (1994年) 127 で引用
9. ジョン・キスレットの言葉, リロイ・R・ヘーフェンとアン・W・ヘーフェン, *Handcarts to Zion: The Story of a Unique Western Migration*, 1856 - 1860 (1960年) 106, 107 で引用

家族がユタに着いたときには「わたしたちは皆死ぬほどおなかがかすいていた」とマーガレット・マックネイルは言っています。「母はわたしをこの家にやって、かぼちゃを恵んでもらうことにしました。1セントのお金もありませんでしたし、子供の中には動けないほどおなかがかすいている子どもいたからです。」





七十人
エリック・W・
コビシュカ長老

奇跡の神

シェフィールドに住むスロバキア人の聖徒たち

イギリス・シェフィールドの神権指導者と宣教師、ワード評議会と会員は
教会の真の発展に向け一致して取り組んだ結果、驚くべき方法で祝福を受けました。

預言者モルモンは集まった信者に
向けて力強い説教をする中で、
ある簡単な質問を投げかけま
した。「奇跡はやんでしまったのであろう
か。」モルモンはすぐにこう答えます。
「見よ、そうではないと、わたしはあなた
がたに言う。」(モロナイ 7:29)

それから、モルモンはどのようにこの末
日に大いなる救いの業がもたらされるの
か説明し、聖霊と天使の働き、わたしたち
の祈り、信仰と主の奇跡との関係につい
て力説しました(モロナイ 7:33 - 37,
48 参照)。

左——スロバキア人の聖徒と
求道者を教えるすばらしい季節を楽しむ、
ニコラス・バス長老とジョセフ・マッケイ長老(右下)。
始まりは、シェフィールドの
ファーゲート歩行者天国近くで
宣教師がルドビート・キャンドラック兄弟
(左上。夫人とともに)に声をかけたことだった。

6月に開かれた伝道部会長訓練セミ
ナーで、大管長会および十二使徒定員
会は、イエス・キリストの弟子である教
会員は福音を宣べ伝えるという基本的
な義務を負っていることを伝道部会長
が理解できるよう注意を喚起しました。
専任宣教師は会員がこの責任を果たせ
るよう助けをくれます。ステークおよび
ワードの評議会は、宣教師と会員の取り
組みを調整し働きがうまく進むようにし
てくれます。

この記事では、イギリスのあるワード
の指導者と会員、ワード評議会がこれ
らの原則を実践した結果、改宗という
奇跡を目の当たりにした出来事につい
て紹介します。

預言者たちは聖文の中で、神は昨日も、
今日も、またとこしえに同じであられると
指摘しています(3 ニーファイ 24:6; 教
義と聖約 20:12 参照)。「全世界に出て
行って……父と子と聖霊の名によって
バプテスマを施しなさい」という戒めに
従おうとするとき(教義と聖約 68:8)、
以下の原則について研究し、心に留める
ことが重要です。

- 神はお変わりになることはない。
- 神は奇跡の神であられる。
- 神の最も大いなる奇跡は、神の子供
たちに永遠の救いをもたらすことであ
る。
- 神はわたしたちの信仰に応じて奇跡
を行われる。わたしたちは行いにより
信仰を表す。
- 聖霊は改宗の過程で重要な役割を
果たされる。

進んで犠牲を払う

わたしはヨーロッパ地区で奉仕していたときに、これらの原則を実践したことにより奇跡が起きるのをイギリス・シェフィールドで目の当たりにする機会に恵まれました。2008年の終わりに、シェフィールド第1ワードのマーク・ダントンビショップは、ワードを発展させるために何ができるかじっくりと考えていました。指導者訓練集会で、ステーク会長はビショップたちにこう尋ねました。「伝道活動で成功するために皆さんはどのような犠牲を自ら進んで払おうとしていますか。」ダントンビショップは、指導者たちの教えから様々なことを学びました。すなわち、良いワード伝道主任が鍵となること、機能するワード評議会が不可欠であること、御霊の促しに進んで耳を傾けることが重要であることを学んだのです。

よく考え、祈った後、ダントンビショップは神権の鍵を行使し御霊の促しに従って、二人の顧問、グレゴリー・ネトル

シップ兄弟とロバート・マキューアン兄弟を解任しました。それからダントンビショップはネトルシップ兄弟をワード伝道主任として、マキューアン兄弟をワード伝道主任補佐として新たに召したのです。ビショップリックのメンバーは親しい関係にあったため、この変更は彼らにとってたやすいことではありませんでした。しかし、ダントンビショップはこの決定が正しいことを知っていました。また、二人の顧問も新しい召しを謙遜に受け入れました。

ビショップは新しいワード伝道主任とワード評議会とともによく祈りながら、ワードの発展に向けた計画を立て目標を設定しました。計画を実施すると、大きな成功を収め始めました。改宗者のバプテスマは飛躍的に増加し、多くの人が教会に再び活発に集うようになりました。しかし、ワードの指導者たちは、自分たちの信仰と働きが思いも寄らない方法で報われようとしていることをまだ知りませんでした。



愛に心を動かされる

2011年3月、一人の若い宣教師とその同僚がシェフィールドの街頭で人々に声をかけていました。ニコラス・パス長老は通りすがりの男性とその夫人を目にして、話しかけるべきだと強く感じました。パス長老と同僚は走って行って夫婦に追いつきました。ところが、会話はうまくいきませんでした。その夫婦はスロバキア出身で英語を話さなかったのです。しかし、一緒にいた友人が通訳を助けてくれました。宣教師たちは街頭で福音のレッスンを教え、最初の示現と回復のメッセージについて絵を使いながら紹介しました。その後、夫婦は宣教師から福音を学ぶという約束に応じました。

この家族の家長であるルドビート・キャンドラックは、モルモン書を読み始めました。程なく、たばこをやめました。宣教師たちは教える際、何人かの通訳者の助けを借りる必要がありました。また、自分たちでもスロバキア語を少し

学びました。2011年5月14日、ルドビートとその娘一人と親戚しんせきの二人がバプテスマを受けました。

キャンドラック兄弟はバプテスマ会で証あかしを述べました。宣教師と出会ったときの経験について、通訳者を通じて説明したのです。シェフィールドの街の真ん中でパス長老とその同僚を通り過ぎたときに、キャンドラック兄弟は胸に温かいものを感じました。その気持ちを無視して歩き続けましたが、宣教師にもう一度目をやると、宣教師たちが人々と話すときに表れる愛に心を動かされました。声をかけたいと思いましたが、歩き続けました。そのすぐ後で宣教師から声をかけられたので驚きました。

1年前に教会に加わっていたスロバキア人のもう一家族に加えて、キャンドラック家のバプテスマは、イギリス・シェフィールドに住むスロバキア人に起こった現代の改宗という奇跡の幕開けとなりました。これらの新会員は家族や友人を連れて毎週教会に来ました。宣教師に自宅を開放して、近所の人に福音を聞くよう勧めました。

パス長老と新しい同僚のジョセフ・マッケイ長老は頻繁にこれらの家族を訪れました。宣教師たちは彼らを教え、助け、彼らに奉仕し、祝福しました。それは、求道者や改宗者、宣教師、ステークおよびワードの指導者、会員が、教え、学び、御霊たまものの賜物を受けたすばらしい時でした。

「彼らとともにいて彼らを強める」

2011年の夏から秋にかけて、スロバキア人がさらに教会に加わりました。会員数の増加に伴い、地元会員は集会所と自宅を往復するための交通手段を提供し続けることが難しくなりました。忠実なスロバキア人の聖徒たちは、自分たちが理解できない言語で行われる日曜日の礼拝行事に出席するために、数週間にわたり片道8キロの道のりを歩いて行きました。

2011年9月、シェフィールドステーク会長会が再組織され、ダントンビショップは新しいステーク会長に召されました。

マーク・ダントンビショップ(上)とワード伝道主任、ワード評議会の伝道活動は、思いも寄らない方法で報われた。

何十人ものスロバキア人が教会に入り、

日曜学校に出席するために教会までの8キロの道のりを歩き始めたのである。左のダーネル通りもその一つ。



1 か月後、イギリス人とスロバキア人の聖徒に向けてファイヤサイドが開かれました。集会には通訳者がいました。

壇上に座っていたダントン会長は、シェフィールド第1ワード付属のスロバキア人グループを作り、彼らの居住区に近い施設で集会を行うべきだと感じました。間もなく適当な集会所が見つかり、部屋を借りました。2011年12月11日、初めての集会が新しい施設で開かれました。シェフィールド第1ワードの指導者は、50人が出席すればよいと楽観的な望みを抱いていました。ところが、出席したのは63人のスロバキア人を含む84人でした。

シェフィールドステーキの再組織に伴い、ロバート・マキューアン兄弟がシェフィールド第1ワードのビショップに召されました。ネトルシップ兄弟は引き続き伝道主任として奉仕しました。二人のビショップのもとで、ワード伝道主任とワード評議会は、スロバキア人の聖徒たちと「ともにいて彼らを強める」ワードへと会員たちをよく導きました（教義と聖約20:53）。

ワード評議会は、様々な問題に対処しました。例えば、新会員の必要をどのように満たすか、新会員がワードの活動すべてに参加できるようどのように助けるか、彼らを福音の中でどのように育むか、言葉の壁をどのように克服するかなどの問題に対処したのです。評議会の会員たちは、神の助けを求めて断食し、祈り、そして熱心に働きました。新会員を訪問し、専任宣教師と一緒に福音のレッスンに参加しました。交通手段を提供しました。スロバキア語の教会資料を注文しました。新たにバプテスマを受けた会員を神殿に連れて行き、死者のためのバプテスマを行いました。

さらに、ワードの指導者たちはクリスマスの奉仕プロジェクトを計画しました。ワード会員は募金をして、おもちゃや衣服などの贈り物を集めました。クリスマスには、クリスマスに食べる夕食を含む大きなクリスマスギフトを詰めた袋が、ワードの管轄地区内に住むスロバキア人の聖徒たちをはじめとする家族に配られました。

昔からの教会員と新会員は互いの言語をほとんど理解できませんでしたが、真の愛がこもった言葉から発せられるぬくもりを皆感じていました。会員と求道者は、驚くほどの喜びと幸せと活気で包まれていました。

翌年、幾つもの家族がバプテスマを受けて教会と結ばれ、この小さなグループは堅固な教会ユニットへと発展しました。父親たちはアロン神権やメルキゼデク神権に聖任され、

右——^{せいさん}聖餐会に来る人々を歓迎する、ファロ・ドゥンカ。
シェフィールドに住む、スロバキアグループの指導者。
スロバキアグループは、2013年3月に支部に組織された。

上——ワード評議会に出席するシェフィールド第1ワードの指導者たち。
下——聖餐会で話す姉妹。

息子たちはアロン神権に聖任され、20人以上の子供を擁する初等協会が設けられ、若い男性と若い女性のプログラムが組織され、毎週25人以上の青少年がそのプログラムに出席しました。主は、その土地の言語を話しグループの支援に加われる、チェコ共和国出身の専任宣教師を送ってくださいました。同時に、これらの家族は故郷にいる家族・友人を紹介しました。

奇跡の神

なぜこのようなことが起きたのでしょうか。神は奇跡の神であることをやめてはもらえないからです。忠実な宣教師たちが福音を受け入れる備えができた人を勤勉に探したからです。ステーキ会長とビショップたちが信仰をもって行動し、聖霊の導きに従ったからです。ワード評議会在責任を引き受けて一致して働いたからです。会員が愛の言葉を学び、指導者の呼びかけに従って行動し、「わたしは……奇跡の神である。わたしは、昨日も、今日も、またとこしえに変わらないこと……を、世の人々に示そう」という主の言葉が真実であるという信仰と確信を持っていたからです（2ニーファイ27:23）。

シェフィールドでの成功は一時的な出来事ではありません。この出来事は、預言者を通して与えられた約束を思い出させてくれます。そして、キリストのもとに来るよう周りの人を招くことで神の御手に使われる者となりたいという望みと信仰を高めてくれるのです。もしわたしたちがそうするならば、ほかの人を教え、教会に活発に集うように育む機会を主から授かる立場に自らを据えることができます。そして、神が引き続き奇跡の神であられることの証拠を目にするでしょう。■



主に仕える

夫のサイラスとわたしは2006年5月23日に神殿で結婚しました。結婚前、夫の研究所では日曜日にも働く必要がありました。シフト制でしたが、たいてい夫は真夜中から翌朝の8時まで働きました。仕事を終わると家に帰り、制服を日曜日の服に着替え、まっすぐ教会に行きました。集会は9時からでした。夫は結婚以来、これをずっと続けていました。

時には仕事が終わるのが遅く、わた

しは独りで教会に行きました。わたしたちはずっと安息日に働かなくてもいいように願っていました。2006年6月の第1安息日は、結婚してから初めての断食をしました。わたしたちはサイラスが日曜日に働かなくてもいい仕事に恵まれるように信仰を込めて祈りました。

数日後の午前10時ごろ、いつも朝の8時から9時の間に帰って来るのにサイラスはどこにいるのかしらと思いま

した。突然、「彼は昇進したのかもしれない」という思いを感じました。11時ごろになってやっとサイラスは帰宅しました。玄関に入ると良い知らせと悪い知らせがあると仰いました。

わたしは悪い知らせを先に言ってほしいと言いました。彼はもうすぐリーガンからパナイに引っ越すことになると言いました。ステーキの会員たちが大好きだったので、最初はその知らせが嫌でした。ステーキの会員たちは、サイラスとわたしには両親や親戚が近くにいないことを知って、わたしたちに親切にし、家族のように接してくれました。

パナイに引っ越す理由を尋ねると、夫は良い知らせがあるからだと言いました。パナイにある別の仕事のことで上司から面接を受けてきたと言いました。すぐにわたしは、給料のことでなく、その仕事の日曜日にも働かなければならないのかどうか尋ねました。「いいや」と、いう答えを聞いてわたしはとても幸せでした。わたしは彼に抱きついて、新しい仕事はわたしたちの断食と祈りの答えだと言いました。2か月後、サイラスはパナイで新しい仕事を始めました。

天の御父はわたしたちのことを御心に留められ、わたしたちが信仰を行使して、戒めを守るときに祝福してください。祈りと断食の原則に感謝しています。夫の仕事はわたしたちにとって祝福です。今、夫はワードで自分の召しを果たす時間があり、日曜日にする仕事は主のための仕事だけです。■

メアリー・ジェーン・ルミバオ・スヤ
(フィリピン)

時には仕事が

終わるのが遅く、
わたしは独りで教会に行きました。
わたしたちはずっと
安息日に働かなくてもいいように
願っていました。



永遠の家族

わたしは19歳のとき、3か月間の人道支援の旅でエクアドルへ出かける前に、祖父母を訪ねました。祖父は健康がすぐれず、介護センターに入っていました。認知症と高齢に伴うその他の慢性病を患っていたのです。

家族と一緒に介護施設を訪れたとき、わたしは、祖父を訪ねるのは恐らくこれが最後になるのではないかと思い、気がふさぎました。旅行に行っている間に祖父は亡くなるだろうと分かっており、わたしは出かけることに罪悪感を覚えました。

わたしたちが祖父の部屋に着いたのは、ちょうど職員が祖父を車いすに移したばかりのときでした。わたしたちは祖父の車いすを押して施設のロビーに行きました。そして、母が職員の一人と話をしている間に、16歳の妹とわたしは祖父に話しかけました。

祖父は以前の祖父のようではありませんでした。認知症が進んでいることは明らかで、混乱しているようでした。わたしたちが祖父に何人の孫がいるか尋ねたとき、祖父は正しく答えられませんでした。そこで、実際には孫が何人かということをおおげさに話題にして、わたしたちは愛情を込めて祖父をからかいました。

わたしは祖父がかわいそうになりました。ところがそのとき、意識に障害があり、わたしたちの質問に正しく答えられない中で、祖父は突然こう言ったのです。「永遠の家族。」

わたしは衝撃を受けました。近くにいた職員には祖父が言ったことは分かりませんでした。妹とわたしは互い

に顔を見合わせました。二人ともはつきりと祖父の言葉を聞いたのです。その後、祖父はもう一度繰り返して言いました。「永遠の家族。」今度は母も祖父の言葉を聞きました。

わたしはその日の訪問については、ほかに何も思い出せません。覚えているのはただ、介護センターを去るときに、悲しみと喜びでむせび泣いたことです。別れを告げ、この世で二度と会えない人に対する悲しみに涙しました。同時に、その短い言葉に込められていた優しい思いやりと、その言葉が心に残してくれた平安に対する喜びにも涙したのでした。

祖父はその心の状態がどうであれ、最後のひとときに、家族が永遠であるという強い確信と知識を伝えることができたということを、わたしは知っています。

その後間もなく、わたしは人道支援の旅に出かけました。わたしが帰る1週間前に祖父の死去の知らせを受けたとき、わたしの心は平安でした。いつの日か再び祖父に会えることを知っていたからです。今もそれを知っています。神殿の儀式に感謝しています。家族は永遠なのです。■

ケリー・H・マドロー（アメリカ合衆国、ユタ州）



祖父は以前の祖父のようではありませんでした。認知症が進んでいることは明らかで、混乱しているようでした。

ここにはお入りになれません

夫のジョンは体の大きな人でした。身長は6フィート4インチ(193センチ)あり、体重は200ポンド(90.7キロ)を超えていました。夫にとって、エコノミークラスでの空の旅は不快でしかなく、最悪のときは苦痛そのものでした。

2006年8月に、わたしたちはブリガム・ヤング大学ハワイ校で教会教育奉仕宣教師として奉仕するように召されました。帰還する時期が来たとき、夫がアメリカ本土に帰る飛行に耐えなければならぬということ、わたしたちはひどく心配しました。しかし、喜ばしいこと

に、チェックインのときにファーストクラスに空席が一つあったので、夫の座席をアップグレードしてもらえました。長い足を十分に伸ばせる快適な席に座れることになったのです。

飛行の途中で、わたしは夫の様子を見に行くことにしました。そして、ファーストクラスに近づいたとき、客室乗務員が入り口の所に立っていてわたしを止めました。

「何かご用でしょうか」と、彼女は尋ねました。

「ええ、ちょっと主人に会いたいです」と、わたしは答えました。

ファーストクラスに近づいたとき、客室乗務員が入り口の所に立っていてわたしを止めました。



「すみません。ここにはお入りになれません。」彼女は愛想よく、しかしきっぱりと言いました。

「でも、主人なんです。ちょっと会いたいです。」

それでも行く手を遮って、彼女はまたこう言いました。「申し訳ありません。ここにお入りになることは認められておりません。ご主人に言付けをお伝えできます。ご主人がお望みであれば、お客様のところにいらっしゃることもできます。でも、規則により、このエリアに立ち入れるのはファーストクラスのお客様だけです。」

わたしは一瞬あっけにとられ、彼女がその場に立ち続けているのを見て、静かにエコノミークラスの自分の座席に戻りました。

わたしは聖文と預言者たちの教えに述べられている3つの栄光の段階について考え始めました。キリストは月の栄えの王国の人々を訪れ(教義と聖約76:77参照)、仕える天使は星の栄えの王国の人々を訪れる(教義と聖約76:88参照)が、下位の王国にいる人々は決して日の栄えの王国に入ることにはできない(教義と聖約76:112参照。教義と聖約88:22-24も参照)と記されています。自分の経験について深く考えたとき、わたしは下位の王国にいる人々がどのような有様であるかをかいま見たように思いました。「すみません。ここにはお入りになれません」という言葉を聞いたときに、彼らはどのように感じるでしょうか。

それから5か月後、夫は癌で他界しました。飛行機での経験から、わたしは再びその言葉を聞く必要が決してないような生活をしたと特に思うようになりました。少なくとも幕のかなたで聞きたくありません。■

ボニー・マーシャル(アメリカ合衆国、ユタ州)

幸せに値段はつけられません

先日、わたしは従業員に給与を払うお金を引き出すために銀行に行きました。お金を出納係から受け取る前に、わたしは彼に、何枚かの200ソル札を50ソル札に両替してくれるようお願いしました。出納係はお金を両替してくれましたが、わたしは彼がお札を数え間違ったのを見た気がしました。

わたしは彼から50ソル札の束を受け取り、引き出すお金を待つために後ろに下がりました。そして、待っているときに、先ほどのお金を数えました。わたしは出納係に1,200ソル渡しましたが、彼から受け取った額は2,200ソル、つまり1,000ソル多く渡されていました。その瞬間にわたしは誘惑を受けました。銀行にはお金がたくさんあると、自分に

言い聞かせたのです。しかし、心の中では、そのお金は自分のものではない、それを返さなければならないということを知っていました

数分後に、出納係が手続きを終えてわたしを呼びました。彼はお金を数え、そのお金をわたしに手渡して、「ほかに何かご用件はありますか」と尋ねました。

「あります。先ほど小さなお札に両替してもらうために1,200ソル渡しましたが、受け取ったのは2,200ソルでした」と、彼に言いました。

それから、わたしは彼に2,200ソルを手渡しました。彼は震える手でそのお金を2回数え、それを見て信じられないという様子でした。それから、わたしを見て何か言おうとしましたが、2回

この言葉を言うのがやっとでした。「どうもありがとうございます。」

わたしは幸せな気持ちで銀行を後にしました。その週に、わたしは誘惑に打ち勝つというテーマでワードの若い男性のためにレッスンを準備していました。銀行での経験を彼らに紹介できたのはすばらしいことでした。

「うそでしょう。1,000ソル返したんですか」と、何人かがふざけて言いました。

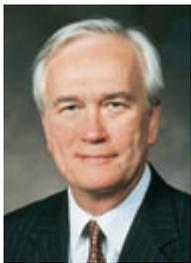
「幸せに値段はつけられません」と、わたしは笑いながら答えました。

誘惑に耐えることの重要性に関してわたしの証と若い男性たちの証を強くしたこの経験に、わたしはとても感謝しています。■

アベリノ・グランデス・カストロ(ペルー)

銀行出納係から受け取った額は2,200ソル、つまり1,000ソル多く渡されていました。その瞬間にわたしは、その差額をそのまま受け取るようにという誘惑を受けました。





キース・K・
ヒルビグ長老

2001年から2012年まで
七十人として奉仕しました

永遠のために生きる

わたしはヤングアダルトの皆さんに、
永遠に家族とともに日の栄えの王国に住む将来の情景を
しばしば思い浮かべるようにお勧めします。

2 世代、あるいは3世代前のヤングアダルトの世界と比べると、こんにち今日のヤングアダルト（既婚または独身）の世界は、何と違っており、また何と困難になっていることでしょう。わたしが大学にいたときには、今日ほど多くのチャレンジはありませんでした。あるいは、チャレンジはそれほど大きなものではありませんでした。

しかし、皆さんは今この時期にここにあります。年長者は永遠の世へ去って行きますが、皆さんはこの世で暮らします。皆さんが今ここにいるのは、偶然ではなく、創世の前に計画され、同意され、実行に移された永遠の計画の一部なのです。

福音の回復について知っている皆さんは、何と幸せでしょう。皆さんは死すべき世に来る前に天の御父とイエス・キリストのもとにいたことを知っています。皆さんは教えと試しを受けました。進歩成長できるように律法について学びました。皆さんはそれらの律法に従い、その結果、地上に来る資格を与えられ、昇栄と支配と神性に通じる道に置かれたのです。

皆さんは地上における死すべき生涯の目的を理解しています。また、死後に与えられる機会について教えられています。要するに、皆さんは永遠のものを見方を持っています。すなわち、過去を振り返ることができ、また将来に目を向けることができるのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員ではないヤングアダルトの年代の大多数の人と世間一般の人々は、これらの事実をほとんど知りません。彼らは誕生と死という二つの出来事で仕切られた箱の中にいるかのような生活をしています。限られたもの見方に



フォトクレジット: エンリコ・ストラーカ



皆さんは一時の幸せのために
生きるのではなく、
むしろ永遠のために
生きなければなりません。
皆さんと伴侶、あるいは
まだ結婚していなければ
将来の伴侶が、
従順であれば
「とこしえに栄光を
その頭に付け加えられる」
ということを
いつも忘れないでください。

よる制約を受けながら物事を判断し、行動しています。特に、一時の幸せ、すなわち永遠の流れの中のごくわずかな期間にすぎない誕生と死の間の時間のために生きているのです。恐らく彼らは前世の存在についてまったく知らず、永遠についてもほとんど知りません。

永遠の可能性

しかしながら、皆さんは、永遠における個人の可能性について約束があることを知っています。聖なる神殿で結び固めを受けた夫婦に、主は次のように約束しておられます。

「『あなたがたは第一の復活に出て来るであろう……そして、王位、王国、公国、および力、主権、すべての高い所と深い所を受け継ぐであろう』……あなたがたがわたしの聖約の中にとどまり、殺人を犯して罪のない者の血を流すことがなければ、わたしの僕が彼らに授けたすべての事柄は何であろうと、この世においても永遠にわたっても、彼らに行われ、彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを通り過ぎ、彼らの頭に結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。

それで、彼らは神々となる。彼らには終わりが無いからである。それゆえ、彼らは続くので永遠から永遠に至り、すべてのものが彼らに従うので、彼らはすべてのものの上にあるであろう。それで、彼らは神々となる。彼らは一切の権威を持ち、天使たちが彼らに従うからである。」(教義と聖約 132:19 - 20)

わたしは皆さんに、永遠に家族とともに日の栄えの王国に住む将来の情景をしばしば思い浮かべるようにお勧めします。その

深遠な栄光に満ちた卓越した状態を、わたしたちは、今はまだ完全には理解できません。しかし、絶対的に確信できることがあります。それは、皆さんがそれぞれ「第一の位」を保ったということです（アブラハム 3:26）。皆さんはそれぞれ前世のすべての試験に合格したのです。皆さんはそれぞれ深い信仰を働かせ、その結果、死すべき体を得てこの死すべき世に来る特権を与えられました。

したがって、皆さんは一時の幸せのために生きるのではなく、むしろ永遠のために生きなければなりません。皆さんと伴侶、あるいはまだ結婚していなければ将来の伴侶が、従順であれば「とこしえに栄光をその頭に付け加えられる」ということをいつも忘れないでください（アブラハム 3:26）。これは神からその子供たち一人一人に与えられているすばらしい個人的な約束なのです。

皆さんが神の戒めを忠実に守るならば、神の約束は文字どおりに果たされます。問題は、人々に敵対する者が人々の思いをくرامそうと努めていることです。人々がそれを許すならば、サタンは、言うなれば、彼らの目にほこりを投げ、彼らは世の事柄に目をくرامされます。

皆さんが永遠のことについて知っている事柄を、キリスト教界の神学者や学者は知りません。しかし、サタンは知っています。皆さんの前世における備え、地上における目的、さらに皆さんの永遠の可能性を、サタンは知っているのです。

悪魔という言葉のヘブライ語訳は、「滅ぼす者」¹です。悪魔は永遠に至る皆さんの旅を妨げようとしています。この世と将来における皆さんの可能性



神は皆さんに、
善悪を選ぶ権利だけでなく、
悪ではなく善を選ぶ力も
与えてくださっています。
結局、決めるのはサタンではなく、
皆さんなのです。

を損なおうとしています。選択の自由を無分別に行使させようとしています。自立を主張したがる若い人々の中には、自分の自立を最もよく表現できるのは、何か悪いことを行う選びをするときであると考える人がいます。どんな愚かな人でもそれができます。どんな群衆でもそれができるのです。

実は、自立、ほんとうの自由は、常に正しいことを選ぶことによって最もよく示し、経験できるのです。神は皆さんに、善悪を選ぶ権利だけでなく、悪ではなく善を選ぶ力も与えてくださっています。そのために、神は皆さんに、サタンとその軍勢に勝る力を与えてくださっています。結局、決めるのはサタンではなく、皆さんなのです。

天の御父は、ある重要な目的のためにこの死すべき経験を定められました。それによって、わたしたちは試しを受け、悪に打ち勝つことができるのです。御父が特に試練と誘惑を準備されるといことはほとんどありません。しかし、死すべき世には試練と誘惑がたく

さんあることを、御父は御存じです。わたしたちがこの地上にいる間、「生まれながらの」自我に打ち勝ち（モーサヤ 3:19 参照）、物欲を自制し、自分自身のふさわしさを証明することを学ぶようにと、御父は望んでおられるのです。サタンは別の考えを持っています。わたしたちの進歩を妨げるために、サタンはできることを何でも行おうとします。

世の誘惑

サタンの狡猾で邪悪な支援と励ましを受けて、この世の人々は皆さんに、人々から受け入れてもらい、群衆とともに歩み、瞬間のスリルを楽しむようにと誘惑を仕掛けます。恐らくは不適切な映画やビデオゲーム、（ポルノグラフィを含む）不道徳な行為、下品な言葉遣い、慎みのない服装、不正直という形で誘惑を仕掛けてきます。サタンは神が定められた家族のあり方について皆さんの理解を混乱させようとしています。本来、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、子

供たちは父親と母親により育てられる権利を有しているのです。²

皆さんが一時の幸せのために軽率にルシフェルの誘いを受け入れるならば、ルシフェルは皆さんから永遠の祝福を奪うことになります。サタンは永遠の展望をまったく持っていません。サタンは天での戦い、証による戦いに敗れ（黙示 12：11 参照）、キリストに従う忠実な者たちがサタンとサタンの支持者たちを打ち負かしたことを覚えておいてください。その犠牲者は多数に上りました。サタンに従ったすべての者、すなわち天の群衆の3分の1が投げ出されました。彼らは決して肉体を受けることなく、永遠の命を得る機会を持ってません。

リーハイは息子のヤコブに語ったときに、こう述べました。

「わたしリーハイは、自分が読んだことから考えるのだが、記録にあるとおり神の一人の天使が天から落ち、彼は神の御前で邪悪なことを求めたので、悪魔になったと思わざるを得ない。

彼は天から落ちて、とこしえに惨めな状態になったので、全人類もまた惨めな状態にしようとした。」（2 ニーフай 2：17 - 18）

リーハイはこうも教えています。「そのため、人は肉においては自由であり、……そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」（2 ニーフай 2：27）

現在、麻薬の売人、ポルノグラフィーの手配者、有害な娯楽の推進者、偽りの支援者、不適切な服装の広告主、不道徳の唱道者、伝統的な家族の批判

者、そのすべてが、神の息子と娘の霊的な生活を損なう選を促し、結果として霊の死に至らせるのです。

サタンはこのような誘いにだまされた者の不幸を笑うということ、心に留めておいてください（モーセ 7：26 参照）。サタンが用いる方法は様々ですが、その目的は共通しています。それは、不従順と、それに伴って祝福を失わせることです。

従順による祝福

従順は祝福を得る機会を与え、平安をもたらします。たとえ不正を働くようにという誘惑が強くても、正しいことを行おうと特に理性を働かせて決心したときのことを、よく考えてみてください。不適切な思いを追い出そう、あるいはうそを言いやすいときに真実を告げようと決めたことかもしれません。容認できるものと宣伝されていたにもかかわらず、実際には明らかに不適切なものであった映画（あるいはそのほかの良くない場所）から、立ち上がってそこを去ろうと決めたことかもしれません。

重要な教義の要点

回復によって、末日聖徒は以下のことを知っています。

- 天の御父は従順な人に永遠の栄光を約束しておられる。
- サタンは全人類を惨めな状態にしようとしている。
- 神の子供には誘惑に打ち勝つ力がある。

皆さんは自分の適切な決心を思い起こすときに、何を感じるでしょうか。喜びですか。自制心や力が身に付いたという感覚ですか。主の前で自信が増したことですか。悪に抵抗する能力が増したことですか。それが力であり、それが自由なのです。

皆さんが絶えず誘惑に抵抗するならば、そうすることはもっと容易になります。それは、その物事の性質に変化があったのではなく、それを行う皆さんの力が増したからです。³ 皆さんはどのような誘惑に遭ってもそれに打ち勝つことができるのです（1 コリント 10：13 参照）。

皆さんは自分の起源が神にあることを知っています。神聖な行く末について十分に知っています。わたしは皆さんに、「自らの内にある神の資質を高めるよう」、⁴そして一時的な幸せのためではなく、永遠のために生きるようにお勧めします。

すばらしいヤングアダルトの皆さん、神の王国と社会における将来の指導者である皆さんは、時代を超えたこの戦いの犠牲者となってはなりません。皆さんは天での戦いで生き延びました。地上での戦いに勝利することができるのです。一時的な幸せのためではなく、永遠のために生きてください。

確かに、戒めを心に留めるように努力することには価値があります。なぜなら、その報いとして、日の栄えの王国の最高の階級である神のもとに帰ることができるからです。■

注

1. Bible Dictionary, "Devil" の項
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129 参照
3. 「歴代預言者の教え——ヒーバー・J・グラント」35 参照
4. ゴードン・B・ヒンクレー「より善い人になりましょう」『リアホナ』2002年11月号, 99



「闇」初の「歩」マドマ・ド・シム © 2011 教会歴史博物館の歴史をよめる編集部

心からの信頼を基とした経験

教会機関誌
メリッサ・ゼンテノ

クレア（仮名）が6歳のとき、両親が離婚しました。その後も何年かの間に、クレアは依存症の人や教会への不活発、またうつ病と闘っている家族だけでなく、結婚生活が破綻した多くの男女を目にしました。クレアは悲しく、困惑して、家族を信頼する気持ちを失いました。

「わたしは結婚向きではないと自分に言い聞かせました。それでも、かつて経験した同じことを将来も経験するのではないかという恐れの気持ちをひたすら隠して生活していました」と、彼女は語ります。

クレアは自分の家族の状況に悲観し、また孤独を感じていました。10代のある日、彼女は絶望のあまりひざまずいて祈り、天の御父がおいでになるのか知らせてほしいと嘆願しました。「わたしは叫んで語りかけるのをやめたとき、安らかな、強い、非常に明確な、燃えるような感じに包まれました。そして、天の御父がおいでになり、常にわたしを愛し、試練を通じてわたしを助けてくださるということが分かりました」と、彼女は語ります。

クレアは答えを受けたことで、証を増し、神を信頼し、家族に関する神の戒めを信頼したいという望みが強くなりました。彼女は祈り続けただけでなく、聖文を読み、セミナーに出席し、戒めを守りました。

現在、クレアは結婚しています。そして、信仰をもってチャレンジに立ち向かうようになっていきます。「わたしは強い家庭を築けないのではないかと心配をもうしていません。なぜなら、わたしたち夫婦は常に証をはぐくみ、天の御父と救い主をわたしたちの生活に招き、福音の明白な真理を心に留めようと決心しているからです。」

クレアが神を信頼することは、簡潔な、心からの祈りによって始まりました。しかし、天の御父を信頼するために、わたしたちはほかに何ができるでしょうか。試練に立ち向かっている全世界のヤングアダルトが、どのようにして主への信頼を増し、主の御心と方法と時期に頼ることを学んだか、それぞれの経験を分かち合います。

感謝の気持ちを保つ

ドイツのヘッセに住むシュテファニー・エグリにとって、祝福についてよく考えることが、天の御父の計画と御父の時刻表を信頼するのに役立っています。

仲の良い友達との関係が気まずくなった後、シュテファニーは、受けている祝福を書き留めることを始めました。「デートはしていませんでしたが、わたしたちの関係が何とかもって進展するようにと、いつも願ってきました。でも、彼から自分にはガールフレンドがいると言われたとき、わたしの希望は砕かれました。」

ひどく失望したシュテファニーは、『リアホナ』の感謝に関する記事を読んで、慰めを得ました。そして、これまでどれほどの祝福を受けてきたか、特に独身であることによって受けてきた祝福を書き留めるようにという気持ちを強く感じたのです。

そのリストは、結婚する機会がなかっただけで、祝福を与えられなかったのではないということに気づくのに役立ちました。シュテファニーは、小学校の教師になって子供たちに教える機会を主から祝福されたことに気づきました。彼女は旅行をし、総大会に出席し、EFYプログラムにカウンセラーとして参加してきました。また、

出席したヤングシングルアダルト大会を通じて、最も大切な友情の幾つかが築されました。

しかし、彼女が語るには、最大の祝福は、祖母が亡くなる少し前に一緒に時間を過ごせたことでした。彼女のきょうだいやいとこは、遠方に住んでいたりと、世話をする家族がいたりしたため、それができませんでした。

シュテファニーが受けた祝福を書き留めるようになってから、すでに5年が過ぎています。彼女は今、神殿で結婚する機会が与えられるのを待っています。彼女はこう語ります。「永遠の伴侶にいつ出会うか知りませんが、でも、その時が来ると確信しています。それまで、自分が学び成長するのに役立つ経験を続けて得られることを知っています。」天の御父は彼女を豊かに祝福してこられました。そして、彼女は忠実であれば御父が引き続き祝福してくださるということを知っているのです。

毎日神の言葉を読む

アメリカ合衆国コロラド州のダニエル・マータスセロは、離婚の最終手続きを終えたばかりであり、新たな境遇で平安を感じることに難しさを知りました。もう配偶者はいませんが、父親になったばかりで、しかも失業していました。特にいつも義にかなった生活をしようと努めてきたので、なぜこのようなことになったのか理解できませんでした。

ダニエルは孤独感と喪失感を覚え、聖典を開きました。「聖文を読むことから、過去に感じていた慰めを得ました。それで、毎日聖文を読むようにしました」と、彼は語ります。毎日の聖文研究を行う時間を取るということは、テレビ



やインターネットなどの楽しみを制限するということでした。しかし、それは犠牲ではありませんでした。彼はこう語っています。「読むときに、慰めと導きを得ました。そして、ほかの事柄はさほど重要ではなくなりました。ただ読むために読んだのではなく、答えを求めながら読みました。目的をもって読んだのです。」

ダニエルは、すべての人が逆境を経験するということを知ったとき、聖文に慰めを見いだしました。「預言者やそのほかの人々は義にかなっていても試練を受けました。彼らの経験を

読むことは、人は皆人生のある時点で苦しみを受けるが、その苦しみの中でキリストにもっと近づくことができるということを理解する助けになりました」と、彼は語ります。

さらに、ダニエルは、毎日聖文を読むことで重荷が軽くなったと語ります。なぜなら、それが自分の日々の生活に救い主を招く方法だからです。「わたしは、読んだ節を通じて神がわたしに語りかけてくださったので、事態がもっと良くなること、そして神の助けによってこの経験から良いものが得られることを確信しました。」

神を第一とする

台湾高雄^{カオシユン}の周伯彦^{ジョウ ボイエン}は、ガールフレンドの美華^{メイワー}に求婚した後で心配になりました。「以前にほかの人たちとデートをしたことがあります。そして、これまでに少なくとも3度、交際は進みましたが、結局だめになりました。そのような経験から、交際を続けて永遠の関係にまで発展するという確信は揺らいでいました」と、彼は語ります。

伯彦は美華との結婚について祈ったときに平安を感じたにもかかわらず、自分が受けた答えに疑いを抱き始めました。自分が感じた確認は御霊^{みたま}によ

るものだったのだろうか。それとも、自分の感情から出たものだろうか。この婚約で神殿結婚できるのだろうか。それとも、この交際は終わるのだろうか。

そのときに、伯彦はかつてインスティテュートのクラスで聞いたエズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994年)の言葉を思い出しました。「わたしたちは生活の中で、神を何よりも先に置かなければなりません。……神を第一とすれば、ほかのすべてのものは正しい位置に落ち着くか、またはわたしたちの生活の中から消えていくかのどちらかです。」¹

この勧告は伯彦に人生の転機を与えるものでした。「自分の生活の中で神を第一とし、神に忠実かつ誠実であるかぎり、良くない事柄は消え去り、良い事柄は正しい位置に落ち着くということが分かりました」と、彼は語ります。彼が神を第一とし、美華との関係が良いものであれば、天の御父はそうなるように助けてくださるでしょう。伯彦はそれを信じて努力した結果、中国香港神殿で美華と結婚しま

した。「主を信頼することによって、たくさんの祝福を受けました」と、彼は語ります。

御心を行うように努める

天の御父を信頼するもう一つの方法は、御父の御心を行うことです。スペインのタラゴナに住むマルタ・フェルナンデス・レボロスは、自分の標準を保つ選びをすることによって天の御父に頼るようになりました。

彼女のデートの相手であった若者は、教会員ではなく、教会に入ることに関心がありませんでした。「永遠の結婚について教わってきた事柄と、それをすべてあきらめてこの世のためだけにその若者と結婚するようにと心の中にわいてくる数多くの言い訳の間で、わたしは葛藤を感じ始めました。そのようにして、何か月も混乱と苦痛を味わい、たくさん涙を流しました」と、彼女は語ります。

どちらとも決心がつかずに悩んだマルタは、自分の部屋へ行き、祝福師の祝福に導きを求めました。そして、正しいことを選んだ場合に約束されて

いる事柄について読みました。大泣きしながら、彼女は何をなすべきかが分かりました。「もはや別れの結果は問題ありませんでした。何が待ち受けているか分かりませんが、主の側にいるかぎり、間違いなく物事は良くなるという確信を持ちました。わたしたちが将来を見通す力をつけ、聖霊の促しに従うとき、義の実は『今までに味わったどんな実よりもずっと甘い』ということが分かったと知ったのです(1ニーファイ8:11)。」

箴言3:5-6には次のようにあります。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」

神を信頼するという事は必ずしも容易ではありません。わたしたちは皆、それぞれのチャレンジに直面します。あなたのワードや支部で気の合うデートの相手が見つからないかもしれません。結婚はしていても子供がいなくてもかもしれません。離婚の協議中かもしれません。あるいは、過去の経験のせいで決心するのに恐れを感じているかもしれません。主はあなたの努力を御存じであり、主を信頼するように求めておられます。あなたが天の御父を信頼するようになると、平安と導きが与えられることでしょう。■

注

1. エズラ・タフト・ベンソン「偉大な戒め——主を愛する」『聖徒の道』1988年6月号、4参照



神への信頼をさらに強く永続するものにしななければならない

「この人生は心からの信頼を基とした経験の場です。つまり、イエス・キリストへの信頼、イエス・キリストの教えに対する信頼、聖なる御霊に導かれるわたしたちの能力への信頼です。聖なる御霊に導かれたわたしたちは、主の教えを通してこの世では幸福を得、永遠の世界では目的のある幸福な至高の存在として生活することができるのです。信頼とは、結果を知らされないまま、初めから進んで従うことです(箴言3:5-7参照)。そして、好ましい結果を望むのであれば、主への信頼をさらに強く永続するものにするように努め、個人の感情や経験から来る自信は抑えるようにしなければなりません。……」

主に信頼を置き、主への信仰を行使してください。主はきっと皆さんを助けてくださいます。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老 「主を信頼する」『聖徒の道』1996年1月号、17-18

「この場面で
何をすればいいだろうか、
何を言えばいいだろうか。」



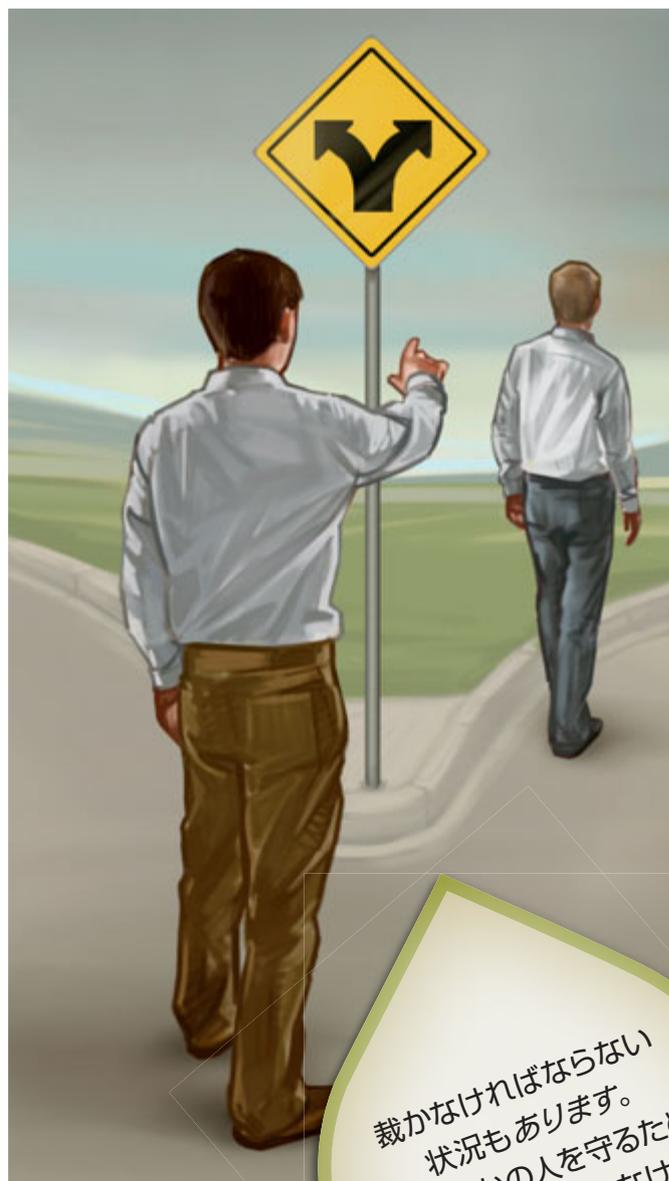
ありません。若い兄弟姉妹の皆さん、この教会が社会や政策に合わせて教義に「手を加える」ことは決してありません。悩んでいる人、孤独な人を助けるために必要な足場を与えるのは、明らかにされた真理という高台だけです。思いやりも愛も、キリスト教徒が持つべき基本的な特性ですが、これらが戒めに対する妥協から生まれるはずはありません。偉人ジョージ・マクドナルドはかつてこう言いました。そのような場合に、「[信じて] いることをすべて言う義務はわたしたちにはなく、[信じて] いないように見えない[ように] する義務はある。」¹

裁かなければならない時

この点について、何事も裁いてはならないと考えること、特にそれは若い人の中に誤解が見られることがあります。どんなことについても価値を決めてはならないという考えです。その点について互いに助け合わなければなりません。なぜなら救い主は、裁かなければならない状況もあり、わたしたちには裁く義務があると、はっきりと述べておられるからです。主はこう言われました。「聖なるものを犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。」(マタイ7:6) わたしには、それは裁きのように聞えます。そうでなければ、確固とした道徳的基準も標準もない、世の中の流儀に合わせることになってしまいます。この考えを推し進めると、結局、永遠の真理や特に神聖なものなどは存在せず、絶対的に大切なものはないということになってしまうでしょう。そしてイエス・キリストの福音において、それは断じて真理ではありません。

このような評価の過程で、ほかの人を非難するのではなく、裁きを反映するような価値判断をするべきです。良い判断をするようにしましょう。ダリン・H・オックス長老はこのような判断を「状況判断」と言っています。これは、自分やほかの人を守るためにしばしば行う判断であって、すべてを御存じの神にのみおできになる「最終的な判断」ではありません。² (先に引用した聖句で、救い主は「状況判断」は「義にかなった判断」でなければならず、それとは極めて別物の、どくぜん独善的な判断であってはならないとおっしゃっています。)

例えば、交通が激しい通りに飛び出さないように子供を正す親を非難する人はいません。それなのになぜ、子供がもう少し大きくなってから、子供が夜帰宅する時間や、デートを始める年齢、違法薬物やポルノグラフィー、もしくは性的



裁かなければならない
状況もあります。
自分やほかの人を守るために
「状況判断」を行わなければ
なりません。

行為の罪を試してみるかどうかについて心配する親が非難されなければならないのでしょうか。わたしたちは判断し、自分の立場を決め、自分の価値観を再確認しているのです。つまり、常に「状況判断」を行っているのです。もしくは、わたしたちは、少なくともそうすべきです。

「ほかの人々に選択の自由はないのですか」

あらゆる状況に適用できるこの姿勢を取ったり、教会がそのような指針を作ったりした場合、若い人々は疑問に思いこよう言うかもしれません。「どのように自分たちが振る舞うべきかわかっています。でも、どうしてほかの人に同じこと

をさせなければならないのですか。彼らに選択の自由はないのですか。わたしたちは独善的で一方的に自分たちの判断を押しつけ、自分たちの信仰をほかの人に強制してほかの人の行動を変えようとしているのではないですか。」こんな質問をされたら、相手の気持ちを大切にしながら、説明しなければならないでしょう。どのような状況においても守るべき原則、どんなことがあっても犯してはならない罪があるのは、それが社会や政治の都合で決められた事柄や律法ではなく、永遠にかかわる事柄だからだと説明してください。それに、違うことを信じている人の気持ちを傷つけたいとは思いませんが、わたしたちが神にそむくのはもっとつらいことです。

10代の若者が、このように言うことに少し似ています。「ぼくは運転できるようになったから、赤信号で止まることは知っているけれども、自分の判断を押しつけて、ほかの人にも赤信号で止まってもらわなければならないのだろうか。」もしそうだったら、それについて説明しなければなりません。わたしたちは皆が法律を守り、赤信号で止まることを望んでいます。しかも、法律を守るよう人に勧めるときには、それを守らない人や自分と違うことを考えている人を非難してはいけません。彼らには選択の自由があるからです。しかし、だれかが法律を守らないという選択をしたときには、危険がその周りに必ずあると思ってください。

若い友人の皆さん、この世の中には種々様々な信仰があり、すべての人には道徳的な選択の自由がありますが、神がこれらのことについて沈黙されているかのように行動する自由や、公に認められている戒めだけ守ればよいという自由は、だれにもないのです。

逃げることのできない世界の中で、慎重に物事を進めることほど、わたしたちにとって大切な能力や優れた品格はないと思っています。つまり、神が宣言された道徳的な基準と、神から与えられた律法をただ守るだけでなく、思いやりを持ち、人の気持ちをよく理解し、愛をもってそれを守るということです。罪と罪人を完全に見分けるのは、確かに難しいことです。これほど判断に困ること、はっきり言いにくいことは、ほかにあまりありません。しかし、愛をもってそのとおりに行おうとしなければならないのです。■

2012年9月9日に行われたCESディボーションナルの説教、「悩めるイスラエル」を編集したものです。説教の全文は、<https://www.lds.org/broadcasts/archive/ces-devotionals/2012/01?lang=jpn> で視聴することができます。

注

1. ジョージ・マクドナルド, *The Unspoken Sermons* (2011年), 264
2. ダリン・H・オークス, "Judge Not' and Judging," *Ensign*, 1999年8月号, 6-13



「赤信号で止まることは知っているけれども、自分の判断を押しつけて、ほかの人にも赤信号で止まってもらわなければならないのだろうか。」

教会機関誌
デビッド・ディクソン

鏡の中の 自分をゆる赦す

わたしたちが悔い改めて、
主がわたしたちを
赦されたと感じても、
なぜ自分を赦すのが、
時にはそんなに
難しいのでしょうか。



一歩ずつ進歩する

現代人にとって、電気のない生活を想像するのは難しいことです。暗い部屋もスイッチ一つですぐに光があふれます。少し前までは夜明けまで待ったり、ろうそくの火の小さな揺らめきの中でしたりするしかなかった単純な仕事も、決して簡単ではなかった発明のおかげで現代では容易に完璧にできるようになりました。

トーマス・エジソンは数年間、1,000以上の異なる素材を試し、やっと長持ちして手ごろな光を放つフィラメント（電球の中にある細い針金）を見いだしました。楽観主義者であったエジソンは使えなかった個々の素材を、使える素材を見つけるための単なる踏み石と考えました。そして一度それが見つかると世界は変わったのです。

内側を見る

スポーツ選手、思想家、芸術家など、失敗から学ぶことを知っており、あきらめなかった人々の、心を鼓舞するような話は、ほかにも数え切れないほどあります。試して、試して、試して、それから成功したという話は、何度聞いても飽きることはない話です。けれども、その特別な話の主人公がわたしたち自身ということならば話は別です。

戒めを守るということに関して、わたしたちのあまりにも多くは自分に途切れることのない完全さを求めます。これは最初に構想して作り上げたら後から直す必要のないような、100万ドルに値する発明をすることや、シーズン中で試合を一つも負けることなく

グランプリの勝利を得ることを望むようなものです。わたしたちが罪を犯し、完璧には程遠いとき、自分を赦し、やり続けるということをしなくなることがよくあります。

大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長は次のように教えました。「時々、世界中のすべての人の中で赦すのが最も難しい人、そして恐らくわたしたちの赦しを最も必要としている人、それは鏡の中から自分を見詰め返している人です。」¹

生まれ変わった魂

でもどのようにしたらよいのでしょうか。モルモン書の預言者アンモンの人生について研究すると、展望が開けてきます。

レーマン人の中でのアンモンの宣教師の経験は奇跡的であると同時に靈感あふれるものです。王の羊を守ったことから始まり、ラモーナイ王に伝道し、全国民に福音をもたらす助けをして、アンモンの人生と職務は聖文全体の中のすばらしい靈感あふれる物語

の一つとなっています。

しかし、アンモンは常に正しく、力強くレーマン人に伝道した信仰あふれる人だったわけではなかったのです。彼は深刻な過ちを犯しました。モーサヤの息子の一人として、アンモンはかつては「神の戒めにも……逆らって、教会を滅ぼし、主の民を惑わそうと、モーサヤの息子たちとともにひそかに歩き回っていた」（モーサヤ 27：10）のです。

アンモンは兄弟たちや息子アルマとともに神の業を破壊しようとしていたので、主の天使が現れ、次のように語りかけました。「さながら雷のような声で語り、その声は彼らの立っていた大地を震わせ……」（モーサヤ 27：11）彼らに悔い改めを叫びました。

明らかに、アンモンには悔い改める必要があったある種の罪がありました。しかし、彼は悔い改めました。しかしもし彼が自分を赦すことをしなかったらどうなっていたでしょうか。もし、もう自分にはもう遅すぎると思い込んで、伝道に出なかったとしたらどうなっていたでしょうか。もし伝道に出なかったら、何年も後にレーマン人の中での成功について兄弟たちと喜ぶことはできなかったでしょう。「さて見よ、わたしたちは、自分たちの労苦の成果を見て、それを目にするができる。その成果はわずかだろうか。」アンモンは兄弟たちに尋ねました。「いや、その成果は多い、と。また、彼らが同胞とわたしたちに示してきた愛から、彼らの誠実さを見ることができる。」（アルマ 26：31）彼らが伝道した結果、何千もの人々が真理に導かれました。



改心した

七十人のシェーン・M・ボーエン
長老は贖罪がど

のように改心させ、わたしたちの人生を聖めることができるかを教えています。ビデオ「Reclaimed」〔英語〕を lds.org/pages/mormon-messages#reclaimed で見てください。



落胆の危険

教会指導者からのそのような明らかな勧告や聖文からの例をもってしても、わたしたちの中には自分は贖罪から漏れており、救いはもう手遅れだと思いつく人がいます。心からの悔い改めの後でさえ、自分の罪の重荷を降ろすことができません。やってみることさえやめてしまう人もいます。

結局、どうせ転ぶのだから、どうしてわざわざ起き上がらないといけないのか。少なくともこれはサタンが吹き込む考えです。そのような考え方は霊的、情緒的に深刻な影響をもたらすだけでなくまったくの偽りです。

聖文には、救い主の贖罪は無限で、すべての人に当てはまると教えています。「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように

白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ 1:18) わたしたちは成功することができます。もう一度やれるのです。そしてその道を進むとき、常に一歩ずつ主の助けがあるのです。

遅すぎるといことはありません

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はあきらめることについて明白な勧告を与えています。「機会を逃したと考え、多くの過ちを犯してしまったと感じていても、あるいは自分には才能がないと思い、家庭や家族からも、神からも、遠く離れてしまったと感じていても、わたしは証します、あなたは神の愛が及ばないほど遠くにいるわけではありません。キリストの贖いの無限の光が届かない深みなどあり得ないのです。」²

さらにホランド長老は神の愛を見落とさないよう教えています。「信仰の公式は、続けること、働くこと、やり遂げること、そして、途中で悩みが生じたら、それが現実のことであろうと、最後に頂く豊かな報いのもとに追いやることです。」³

油性マーカー

ダニー・ダナウェイ・ローワン

わたしたちが犯す過ちの印は永久である必要はありません。
苦痛を伴ったとしても、潔白であるならそれだけの価値があるのです。

希望に満たされる

罪は決して見過ごしにするべきではないものの、悔い改めは現実のものです。赦しは現実のものです。救い主の贖罪は清い場面からもう一度始めるといふ機会を与えてくれます。アンモンが赦しを見いだしたように、あなたにもできるのです。

わたしたちは確かにもっと光輝く日々を望むことができるのです。使徒パウロは教えています。「どうか、望みの神が、信仰から来るあらゆる喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを、望みにあふれさせて下さるように。」(ローマ人への手紙 15:13)

悔い改めの賜物たまものにより、わたしたちは皆、もう一度自分を信じるができるのです。■

注

1. ディーター・F・ウークトドルフ、「憐れみ深い人たちは憐れみを受ける」『リアホナ』2012年5月号、75
2. ジェフリー・R・ホランド、「ぶどう園の労働者たち」『リアホナ』2012年5月号、33
3. ジェフリー・R・ホランド、「ぶどう園の労働者たち」32

高校を卒業して1週間後、わたしは秋に大学に入学する前に夏を過ごすため、遠方に住む姉の家族のところへ身を寄せました。

何人か友人ができましたが、ほとんどは大学生か自分より年上の年齢でした。ある土曜の晩、地元のクラブで演奏する上手なバンドの音楽を聴きに行くために、新しい二人の友人が迎えに来ました。

車を止めると、何か不安な気持ちが出てきましたが、異議を唱えてその晩を台なしにしたいはありませんでした。わたしたちはクラブに入りました。カウンターの後ろの男性がわたしの運転免許証を確認しました。いきなり彼はわたしの両手のこぶしの関節にマジックで線を引きました。

わたしはそれを見てびっくりしました。彼はわたしがバーでアルコールを買うには若すぎるという印を両手に付けたのだと分かりました。

わたしはすぐに居心地が悪くなりました。みんなお酒を飲み、たばこを吸っていました。

そのとき、そこを立ち去る勇気がなかったことを残念に思います。30分ほどして友人の一人が大丈夫かと尋ねてきました。音楽とたばこの煙で頭痛がすると言いました。彼は家まで送ってくれると言い、わたしは喜んで応じました。

わたしは姉の家の洗面所へ駆け込み、痛くなるまで黒い印をこすりました。次の日、わたしはこの手で

聖餐せいさんを取るのです。ですからほんとうにきれいにしたかったのです。しかし、わたしのすりむけたピンク色の両手には、まだかすかに2本の黒い線が残って見えました。

寝る前に祈りの中で、立ち去る勇気がなかったこと、またもっと適切に言えば、まず最初にそこに決して入らないという勇気がなかったことへの赦しゆるを求めました。天の御父に、もう二度とそのような状況に自分を置かないということを約束しました。

次の朝、わたしは残ったインクをほとんど消すことができ、聖餐を取ったときには両手はほぼ完全にきれいになっていました。わたしは罪はこの黒い印とよく似ていると思いました。取り除くには努力が必要で、ときにそれは痛みを伴いますが、わたしたちは悔い改めて、贖罪しよくざいの力により罪を捨て、人生の黒い印をきれいにするができるのです。■

著者はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。





正直と高潔

キリストの弟子として、
これらの個人的な徳質は
あなたがほんとうは
どんな人であるかを表しています。



七十人
クリストフェル・
ゴールデン・
ジュニア長老

アメリカンフットボールの決勝戦の大会で、その極めて重要な試合の間、ジョセフ・B・ワースリンは彼の言うところの「決定的な経験」をしました。

「わたしはボールを持ってフィールド中央にいる敵チームの選手たちを突破し、追加得点のタッチダウンを奪わなければなりません」と彼は述べています。「クォーターバックからボールを受け取ると、相手選手の列に突進しました。ゴールラインが近いことは分かっていたのですが、どれくらい近づいているのかは分かりませんでした。大勢の選手がわたしの上に折り重なっ

ていましたが、5、6センチ手を伸ばすと、指にゴールラインが触れました。ゴールラインまではあと5センチだったのです。

その瞬間、ルールに反することですがそのボールを押し出そうという誘惑に駆られました。そうすることは可能でした。……しかしそのとき、かつて母がわたしにしばしば言った言葉を思い出しました。『ジョセフ、結果はどうあれ、正しいことを行いなさい。正しいことをしていれば、物事はうまくいくものよ。』

どうしてもそのタッチダウンを決めたいと思いました。しかし、友達の日

にヒーローと映るよりも、母の目にヒーローと映りたいと思いました。そこで、ボールを動かすのをやめました。ゴールまではあとわずか5センチでした。」¹ワースリン長老(1917-2008年)は後に十二使徒定員会の会員に召されました。

正しいことを行う

ワースリン長老の決断は高潔さを損なわないすばらしい例です。正直と高潔はわたしたちの人格を試します。どのような状況にあろうとも、人がどう思おうとも常に正しいことを話し、行うことを求めます。

『若人の強さのために』の中の標準の一つに正直と高潔があります。末日聖徒として、またキリストに従う者として、あなたは「自分自身に対して、人に対して、神に対して、いつも正直であってください。正直であるということは、あらゆる点でうそをついたり、ごまかしたり、欺いたりしないということです。

正直と密接な関係があるものが高潔です。高潔とは、結果はどうであれ、いつどんなときでも正しいことを考え、行うことを意味します。あなたが高潔であれば、あなたはだれも見えてなくても、喜んで自分の標準と信念に従って生きています。」²

弟子となる

この死すべき世で試しの状態にあるわたしたちの目的は、「キリストの贖罪により……聖徒とな[る]」(モーサヤ3:19)ことです。聖徒になるということは真のキリストの弟子になることにほかなりません。これはあなたが想像しているよりも難しくはありません。あなたはどのようにしたらいいのか、もうすでに知っているかもしれません。しかし、そのためには努力が必要で、

時には大変な努力が求められます。しかしそれは成し遂げられないことではないのです。

モルモン書は次のように教えています。「見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。」(モロナイ7:16)

キリストの弟子として、次のように自問することにより、どのように話し、どのように行動したらよいか分かります。「イエスならどうされるだろうか。」すると、心に思いが浮かび、それに従って行動するなら、正しいことを行ったという証あかしを受けるでしょう。しかし、自分の正直な行動の真実の結果や祝福を見るには、時には待つ必要があるというのも事実です。

完全に正直になる

『若人の強さのために』には次のようにあります。「不正直はあなた自身を傷つけ、周りの人をも傷つけます。うそ、盗み、万引き、不正はあなたの霊を損ない、

周りの人との関係を損ないます。正直であれば、聖霊の導きを受ける将来の機会と能力は高まります。」³

まことの高潔さと完全な正直さの真のパロメーターは、周りにだれもないときにあなたが考え、話し、行うことによって測られます。主イエス・キリストの真の弟子として、主の示された模範から外れるような行いをすることはできません。わたしたちには比類ない聖霊の賜物があります。救い主は教えられました。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思いおこ起させるであろう。」(ヨハネ14:26)

また、救い主は日々の祈り、聖文研究、生ける預言者や使徒たちの言葉を読むことによってもたらされる偉大な力を下さいました。これらの前向きな日々の行いはわたしたちの中に正直さと高潔を育みます。キリストの弟子として、また末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、あなたの正直さはあなたの高潔さとほんとうはどんな人であるかを表すのだということを覚えておいてください。■

注

1. ジョセフ・B・ワースリン「人生で学んだ教訓」『リアホナ』2007年5月号、46
2. 『若人の強さのために』(小冊子、2011年)19
3. 『若人の強さのために』19

日々の祈り、聖文研究、生ける預言者の教えを取り入れることにより、わたしたちは正直と高潔を育みます。



名誉の 帰還

たとえ偶然であっても泥棒にはなりたくありませんでした。

バレリー・ベスト

午後遅くに授業が終わると、わたしは小さなアンティークショップに立ち寄りました。雨が激しくなってきましたが、帰宅途中に用事を済ませたかったのです。客はわたし一人で、店の女性がわたしが気に入ったランプを見せてくれました。

彼女が袋を開けたとき、わたしはカウンターの上に華やかな色のプレスレットが幾つか飾ってあるのに気づきました。彼女がランプを袋に入れている間、わたしはプレスレットを一つ手に取りました。彼女がプレスレットに触れてしまい、プレスレットの半分くらいがかちゃかちゃと音をたてて床に落ちました。彼女はちょっとあわてましたが、わたしの買った物をレジで打ちました。わたしは片手に傘、片手にランプを持って店を出ました。

帰宅すると、濡れた長靴を脱ぎ、音楽をかけました。ランプを取り出すと、袋の底に何かあるのに気づきました。それは赤いプレスレットでした。飾ってあったのが袋にまぎれ込んだに違いありません。わたしはにっこりとして、この出来事が昔の若い女性の手引きからの話と似たものになるか考えていました。「それからバレリーはローレルクラスで受けたばかりのレッスンを思い出しました。」

わたしはプレスレットをベッドに放

り投げ、ランプのプラグを差し込みました。それはどんよりとした午後に温かい光を醸し出しました。窓の外を眺めました。雨はもっと激しくなっており、地面の雪は汚いぬかるみに変わっていました。

わたしはプレスレットを眺めてみました。深い紅色でした。腕にはめてみました。20ドルと書いた値札が揺れていました。もちろん返すつもりでした。返さないなんて思いもありませんでした。わたしはそれを外して、捨てる予定の本の山のいちばん上に置きました。ホットチョコレートを作りに別の部屋へ行きました。

それからまた戻りました。

この本をいったいどれほどほうっておいたでしょうか。しばらくになります。もしプレスレットを返すのを延ばしたら、プレスレットはいつまでそこにあるでしょうか。

わたしはそれを戻すつもりでした。でもいつになるでしょう。返すのが怖くなるまで待つつもりでしょうか。そのことは忘れてしまうのでしょうか。

わたしはまた少し躊躇ちゅうちよしました。もう一度窓から外を眺めてみました。温まったばかりの足のことや、おいしいホットチョコレートのことを考えました。

それからわたしはプレスレットをつかんで、長靴を履いて、外に引き返しました。



店に着くと、先ほどの女性はほかの客の相手をしていました。わたしは立って待っていました。彼女の応対が終わると、わたしはコートのポケットからブレスレットを取り出し、これがどうして紛れ込んだか説明しました。彼女はちょっと驚き、混乱しながらもお礼を言いました。そんなものでした。わたしの正直さに対して彼女は褒美を

くれたわけではありません。彼女は大ききにお礼を言ったわけでもありません。だれもそれを見ていませんでした。

家に向かって歩きながら、わたしはどれほど常に自分を正直者だと思っていたかについて考えていました。それはわたしが高く評価する資質であり、人にもそれを期待しています。しかし真の正直さは、真の愛や慈愛と同様

に能動的な属性なのです。どんなにわたしの思いが高潔で真実だったとしても、わたしが長靴をまた履いて、自分の意思に従って行動したときに初めて、正直な人間になったのです。

わたしはコートの中で手首にブレスレットがないのを感じて、にっこりとしました。■

著者はアメリカ合衆国ニューヨーク州に住んでいます。

聖約の力



あなたが**聖約**という言葉を知るとき、何が心に浮かびますか。「神との双方向の約束」と答へたら、あなたは正しいです。

しかし天の御父との**聖約**も、またそれ以上のものです。この**聖なる約束**の中には、力、強さ、安全、平安があります。自分が交わした**聖約**や、これから人生の中で交わす**聖約**についてじっくりと考えるとき、そしてあなたが自分の役割を果たすとき、自分が今までと違った人生を生活しているように感じ始めるでしょう。**聖約**はあなたの行動の仕方に影響を与え、選択するときに**靈感**を与えます。

ここに青少年の人生を変えた**聖約**を紹介しましょう。



「**聖約**はまっすぐで狭い道にあなたをとどめ、人生をよりよく生きる助けとなり、より良い理解を与えてくれます。」

マーカス・A、17歳、
(アメリカ合衆国、ユタ州)

「天の御父と**聖約**を交わしたという事実は、霊的に成長し、より忠実な会員となる機会を与えてくれました。わたしが何かをしようとするときには、天の御父と交わした**聖約**について思い出し、バプテスマのときや、神権を受けたときに主と交わした**聖約**を守っているか自問します。天の御父と交わした**聖約**は、自分が福音の中で強くあって、いつか主のもとに戻るための助けとなります。」

エフレイン・V、14歳、(ニュージーランド)



「バプテスマを受けたときは、自分がいちばん幸せなときだったと覚えています。なぜなら初めての**聖約**だったからです。次は神権を受けたときでした。同じ幸せを感じました。神と**聖約**を交わしたことが分かったとき、わたしは満面の笑みをたたえました。友人たちが教会のことをからかうとき、わたしは幸福な気持ちを思い出し、**聖約**は人との**聖約**ではなく、神との**聖約**であるということを思い出します。」

ブラッドフォード・A、16歳、
(アメリカ合衆国、アリゾナ州)

「**聖約**を交わすと、わたしたちや家族にたくさんの祝福がもたらされます。例えば、バプテスマを

受けると、もっと善い人になる力が与えられます。天の御父と交わす**聖約**は、わたしたちが福音に忠実であるために必要な信仰を築きます。」

ナオミ・A、15歳、(メキシコ、グアダハラ)



「この夏、わたしは死者のためのバプテスマのために神殿に何度も参入しました。自分の交わした**聖約**を守り、神殿に参入し、正しいことを行うことにより、わたしは祝福されました。期末試験でほんとうにストレスがたまっていました。わたしは神殿に参入しました。するとすべてが良い方向に向かいました。**聖約**を守ることにより、生活がもっと楽になり、ずっと幸せになりました。」

マッケナ・M、18歳、
(アメリカ合衆国、カリフォルニア州)

「執事になって初めて**聖餐**を配る日、わたしはとても緊張しました。それからわたしは自分がバプテスマを受けた日のことを思い出しました。すると**聖霊**を感じました。わたしは自然に心が穏やかになり、上手に配ることができました。」

セス・A、12歳、(メキシコ、メキシコシティ)



日曜日のレッスン

 今月のテーマ——
 儀式と聖約

聖約は約束ですが、
 それ以上のものです。

話し合いに参加する



7月の神権定員会、若い女性、日曜学校のクラスでは儀式と聖約について学びます。これまで交わした、またこれから交わしたい聖約を書き出してください。そのリストはあなたがどのように生きたいかについて何を表していますか。家庭、教会、ソーシャルメディアを通じて人々に証を伝えることにより、あなたの思いを分かち合うことを考えてください。



聖約は
 強いクリスチャンを作る

「ふさわしくなり、受けられる神権の儀式をすべて受け、聖約によって交わした約束を忠実に守るよう一人一人に強く促します。苦難に遭ったときには、聖約を最優先し、厳密に守ってください。そうすれば、自分の必要に合わせて『疑わないで、信仰をもって願い求め[る]』ことができ、神はこたえてくださるでしょう。神は支えてくださるでしょう。」

十二使徒定員会 D・トッド・クリストファーソン長老
 「聖約の力」『リアホナ』2009年5月号, 22 参照



「聖約を守ることわたしはたくさんの祝福を受けてきました。バプテスマの聖約のおかげで、決断を下すとき、聖霊が助けてくれます。神権を受けるときの聖約は、人々を助け、仕えるために神権を使うという決意です。仕えるときに証が強まります。」

エリック・N, 15 歳, (カナダ, アルバータ州)

「自分のしたいことだけをして、神が約束の片方を守ってくださると期待することはできません。神はあなたの可能性を御存じなので、あなたから多くを期待しておられるのです。そのことを知っていることで、自分を高いレベルの状態に保つことができます。」

ジョリー・H, 15 歳,
 (アメリカ合衆国, コロラド州)

左から——フォトレイスタック・クリスティーナ・スミス、クレック・タイムズ、ロビン・アンダーソン © 2013

お気に入りの 家庭のタベ

M

注意



霊的なスーパーヒーロー

今年は月曜の夜になると我が家にすごいスーパーヒーローたちがやって来ました。どのスーパーヒーローも家族に似ていて、特別な力を持ち、証あかしを強める大切なレッスンをしてくれました。おかげで家族がもっとお互いに良い関係を築こうと思うようになりました。

例えば、ある週は「メディアマン」が、ふさわしくない映画やテレビ番組、雑誌を見ないようにする方法を教えてくださいました。また別の週には「フィット・ミス」が定期的な運動によって超人的な強さを育む方法を説明してくれました。マルハナバチの衣装を身にまとったスーパーヒーローの「ビー・スティル」は、教会や家庭でハチャグのをやめて敬虔けいけんになる方法を教えてくださいました。「ワードガール」はいつどうしたらもっとお互いに褒め合うことができるか説明しました。「サンキューガール」、「自分でやってみよう屋」、「聖句博士」、「生意気やめま少女」、「宣教師マン」やほかのスーパーヒーローたちも我が家の家庭の夕べのレッスンに参加してくれました。

家族が皆、スーパーヒーローになって家族に伝えたい問題は何かを深く慎重に考えてくれたことに感謝しています。家族こそって家庭の夕べを楽しみにしていましたし、スーパーヒーローと過ごす時間はほんとうに楽しかったです。家族の問題について一生懸命に考える度に、天の御父か

ら靈感を受け、より効果的に教え合うためのアイデアを思いつくことができましたことに感謝しています。スーパーヒーローの思い出をいつまでも大切にしていきたいと思います。■

ビクター・W、アメリカ合衆国

兄の証

わたしの母は毎日午後3時から11時まで働いています。たとえ母が月曜の夜に家にいなくても、わたしと兄は自分たちだけで、家庭の夕べをしようと決めました。兄は8年間教会に行っていませんでしたが、最近はインスティテュートにも出席するようになりました。そしてある月曜日の夜の家庭の夕べで福音に関する話をする、と決心したのです。わたしはセミナーに4年間通って、「成長するわたし」もしていたのに、今まで深く考えたこともなかった霊的な考えを、兄がモルモン書から分かち合ってくれました。そのとき感じた御霊みたまは、わたしがずっと求めていたものでした。いつか我が家にもふさわしい神権者がいてくれる時が来るようにとわたしは願ひ続けてきたのです。

毎週家庭の夕べを開くことで家族を強める機会を天の御父が与えてくださることを感謝しています。わたしはイエス・キリストの福音が大好きです。兄とこのような、心からへりくだる家庭の夕べを開くことができたことをうれしく思います。■

イサドラ・A、ブラジル

暗闇を照らす

わたしは停電していたときに開いた家庭の夕べのレッスンを決して忘れることはないと思います。電気がなくては何も読めず、家庭の夕べは大変なことになると思いました。

「明かりがなくて『リアホナ』のメッセージも読めず賛美歌も歌えなかったら、家庭の夕べをどうやって開くっていうの」と心の中で思いました。

幸いなことに、妹が助け船を出してくれました。妹には名案があって、皆が覚えている賛美歌を歌って、前の日曜日に学んだことを話すのはどうかというのです。皆原則を分かち合い、お互いに学び合いました。ともに学ぶというのが家庭の夕べの目的だとわたしは思います。明かりがなくても家庭の夕べを開いて戒めを守ったことを、主はとても喜ばれたとわたしは確信しています。

主は、わたしたちが独りきりでみもとに戻ることを望んではおられないと思います。主はわたしたちに、家族とともに戻るよう望まれています。家庭の夕べを毎週開くことを含め、できるかぎりのことをすべて行い、みもとに戻ることを望んでおられるのです。■

エリカ・S、ブラジル

これらの体験談は、家庭の夕べがどれほど元気が出て楽しいか

教えてください。





神殿のそばで過ごした夏

わたしたち家族は毎年夏休みを利用して神殿参入したことで、大きな祝福を頂きました。

デビッド・アイザクセン

わたしはノルウェーで育ちました。最寄りの神殿はスウェーデンのストックホルムにあり、車で8時間から10時間かかりました。言うまでもなく神殿に行くにはいつでも慎重に計画し、よく考える必要がありました。ステーキでは毎年2回青少年による神殿訪問を計画し、週末に幾つかのワードが共同でバスを借りて神殿に行くこともありましたが、他の青少年と一緒に行くのも楽しかったのですが、わたしたちはいつか家族で神殿に行きたいと思っていました。

そこである年、わたしたち家族は夏休みにストックホルムに行くことを決めました。とても素晴らしい経験だったので、それはたちまちわたしたち家族の夏の伝統行事になりました。神殿に近いキャンプ場でキャンプし、毎朝早起きして、ノルウェーから神殿訪問に来ていたほかの家族と一緒にバプテスマの儀式に参加しました。その後キャンプ場でサッカーや水泳をしました。

こうした夏の経験は、今のわたしにとって神聖な思い出です。神殿が近くになかったので毎月参入することは

できませんでした。行けるときはいつもすばらしい経験をすることができました。車での旅は長くて退屈でしたが、主がわたしたちの犠牲に対して祝福してくださいました。神殿で得た霊的な経験は、神殿とそこで行われる儀式への愛を養う助けとなりました。また家族のきずなも深まりました。

わたしが少々反抗期のころの、ある特別な経験が思い出されます。自分には両親の欠点がたくさん見える気がして、自分の生活態度について両親が忠告する権利などないと感じていました。わたし自身は神殿に参入するにふさわしい生活をしてはいましたが、家長としての父の責任に疑問を抱いていました。ところが家族と一緒に神殿に参入して、バプテスマと確認の儀式を行っていたときに、心地よい御霊の現れを感じたのです。亡くなった人々の代わりをしているわたしの頭に父が手を置いたとき、父が真の神権の権能によって儀式を行っていることを、御霊が確認してくださったのを感じました。このことでわたしは、父は完全ではなくても善い父であり、その息子である自分は祝福されているのだ

と気づきました。そして、反抗的だった自分を悔い改め、父の助言にある知恵と愛を理解するように努めなければならぬと感じたのです。

それから多くの歳月が流れましたが、今も神殿のそばで過ごした夏の思い出は、わたしの中で輝いています。アルマの民がモルモンの泉に感じたように、神殿がこの世で真に美しい場所の一つとなりました。「自分たちの贖い主を知るようになった人々の目には何と麗しいことか。」(モーサヤ 18:30) ■

著者はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます

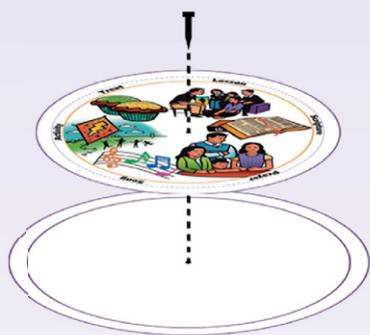
神殿の祝福

比さんは神殿に行ったことでどのような祝福を経験しましたか。感じたことを家族に話さか、日記に書いておきましょう。

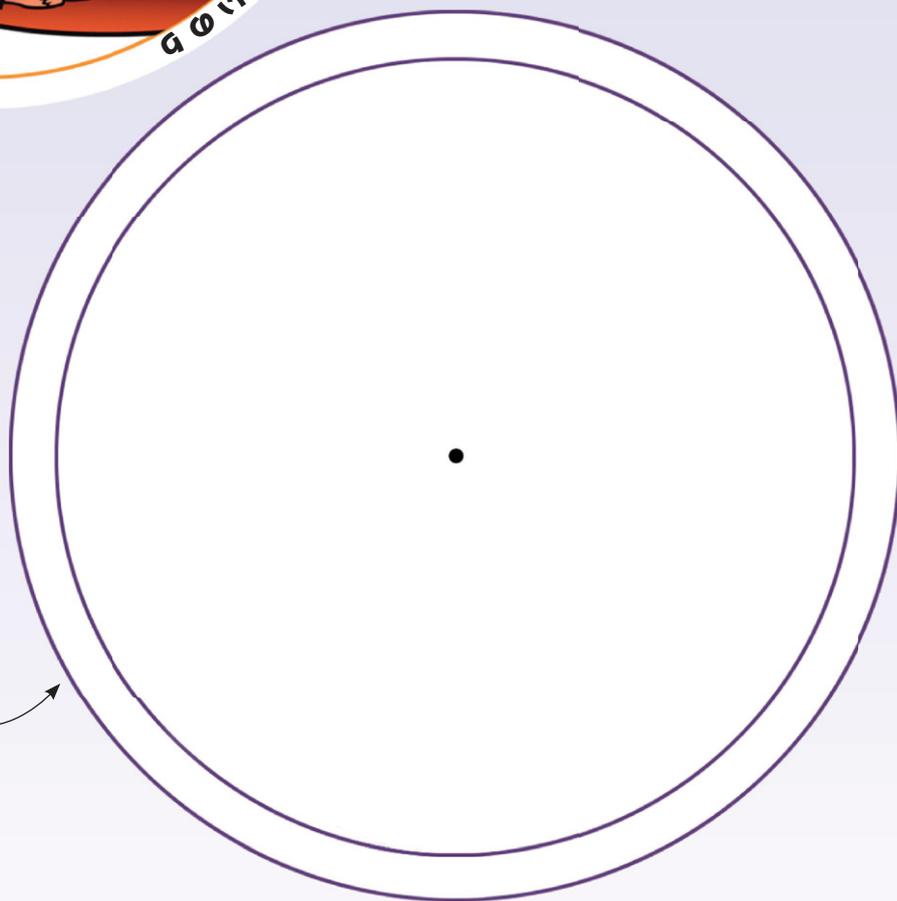
かていのタベの やくわりひょう



かていの^{ゆう}タベを^{けいかく}計画するの^にやく^だ立つ^つやくわりひょう^を作り^ましょう。この^{ふた}二つの^{えん}円を^{あつ}あつ紙^{がね}には^はって、まん^{なか}中を^{きんぞく}きんぞくの^{とめ}とめ金^でと^めます。外^{そと}がわの^{えん}円に^{かぞく}かぞくの^{なまえ}名前^を一人^{ひとり}ずつ^か書^かき^ましょう。毎^{まい}週^{しゅう}やくわり^をか^かえる^たために^{まわ}ハンドル^を回^{まわ}して^くだ^さい。



そと
外がわの^{ふち}ふちに
かぞく^のかぞくの^{ひと}人^{たち}たちの^{なまえ}名前^をを
か^か書^かき^ましょう。



その子を助けて！

ハイディ・S・スウィントン

毎年夏の2か月間、モンソン一家はプロボ川のほとりにある別荘で過ごしました。トミー・モンソンは、川の流れが速いところで泳ぎを覚えました。13才ころのある暖かい午後のこと、トミーは大きなうき輪を使って川を下り始めました。

その日は大勢の人が川沿いのピクニック場に集まって、食べたりゲームをしたりしていました。トミーが川の流れの最も速い地点を通り過ぎようとしたとき、「その子を助けて！その子を助けて！」と言うものすごいさげび声聞こえてきました。一人の少女が危険なうずの中に巻きこまれてしまったのです。岸にいる人はだれも泳いで彼女を助けに行くことができませんでした。

その場にちょうどトミーが流れて来て、少女の頭が水の中に消えていくのが見えました。トミーは手をのばしてその子の

かみをつかみ、うき輪のへりに引っ張り上げると、川岸までこいで行きました。家族はまず少女をだきしめて、泣きながらキスをしました。それからトミーをだきしめ、キスをし始めたのです。トミーはいっせいにみんなに見られていることに気づいてはずかしくなり、急いでまたうき輪のところにもどりました。

トミーは再び川にもどってうき輪で川を下っているときに、温かい気持ちでいっぱいになりました。人の命を救うことができたことが実感できたからです。天のお父様は「その子を助けて！その子を助けて！」というさげびを聞かれました。そしてちょうど必要なときにトミーがそこを通過できるようにされたのです。その日トミーは、天の父なる神がわたしたち一人一人をご存じで、人を救う助け手としてわたしたちを使ってくださることを知って、それがどんなに気持ちの良いものかを学んだのです。■



あなたの務めを果たしてください

トミーは11才のとき、同級生が道路をわたるのを助けるという特別な務めがありました。下の絵を見てください。トミーがその務めを果たすために使った二つのものとは何でしょう。

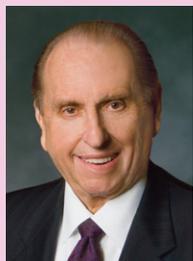
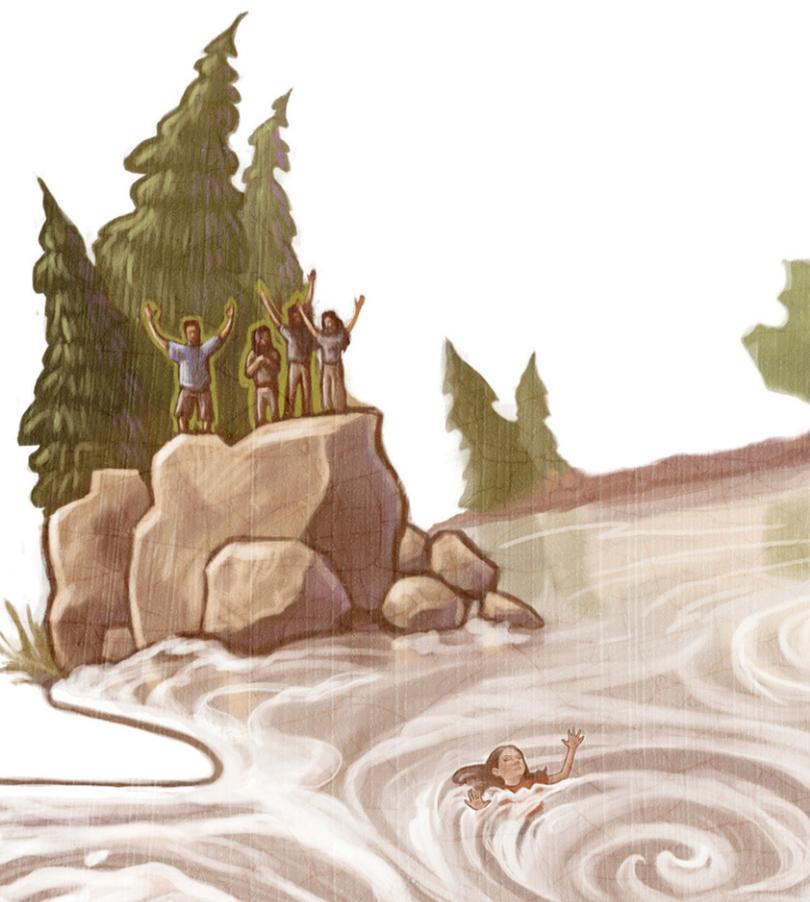


安全な輪

トミーがプロボ川で泳ぎを覚えたとき、家族はトミーの周りを囲って、助けが必要なときにはいつもだれかが近くにいるようにしました。みなさんもトミーのように、安全の輪ゲームをしましょう。

必要なもの—
4人以上の参加者
広い場所

遊び方—
輪になって手をつなぎます。一人が輪のまん中に立ちます。まん中の人
は目かくしをして、行きたい方向へゆっくりと歩きます。輪になっている
人たちは、手をつないだまま、まん中の人からさわられないようにします。
交代でまん中に立ってみましょう。



モンソン大管長からのお話

「わたしたちが自分自身をささげる機会、実に無限にあります。……心を元気づけることができます。やさしい言葉をかけることができます。おくり物を作ることができます。行いに示すことができます。たましいを救うことができます。」

【大管長会クリスマスディポーションナル】から、
Ensign, 2001年2月号, 73



かぞくは 天のお父さまの 計画の いちぶです

今月の初等協会のテーマについて もっと 学ぶために この レッスンと かつどうを つかうと よいでしょう。

モルモン書には アマリキヤ という名の わるい人について 書かれています。アマリキヤは 教会を ほろぼし、王として ニーファイの たみを しいたいと のぞんで いました。そうしれいかんモロナイは、ニーファイ人の ぐんたいの 強く 正しいしどうしゃで、自分たちの かぞくと しんこうを まもることが いかん 大切かを たみに 分かって ほしいと おもって いました。モロナイは ころもを さいて、はたを 作りました。そこに モロナイは つぎのことばを 書きました。

かぞくの 話し合いの ための アイデア

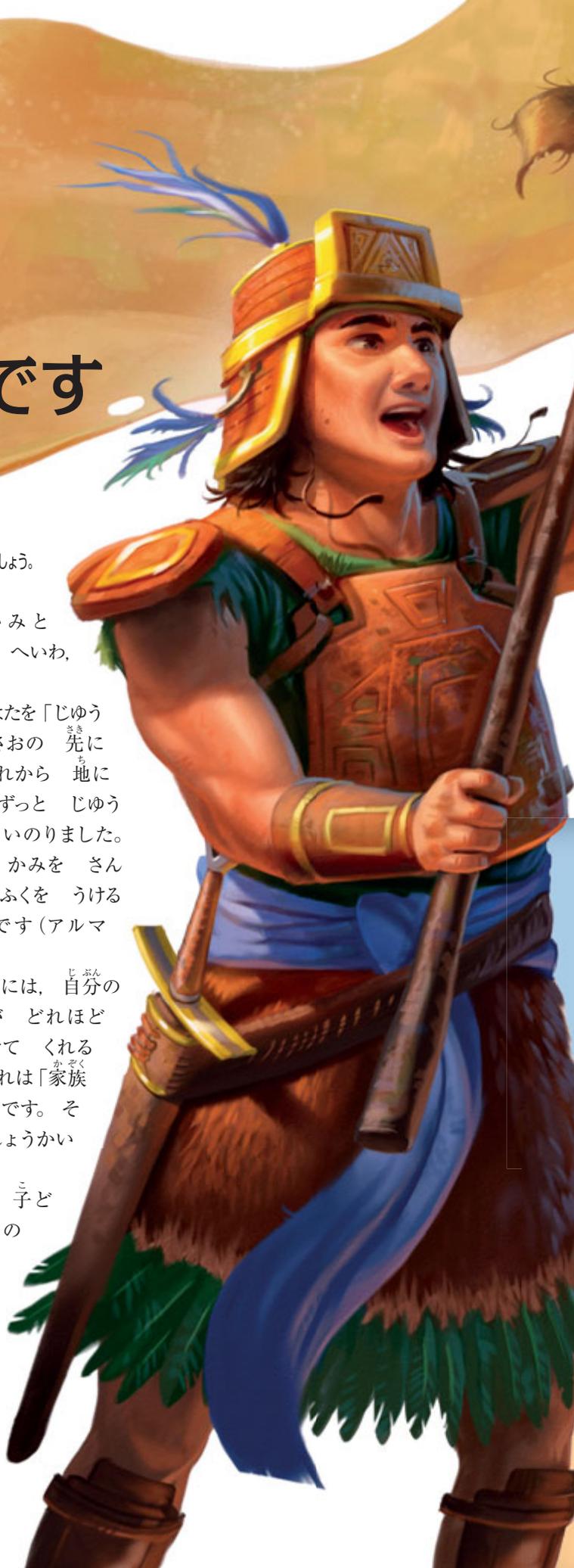
かぞくと いっしょに「家族——世界への宣言」を 読むと よいでしょう。また かぞくを 強めるために、かぞく ぜんいで とり組む ほうほうについて 話し合っても よいでしょう。その 中から 一つを えらび、それを じっこう するための 計画を 立てて ください。

「われわれの かみと しゅうきょう、じゅう、へいわ、さいしの ために」

モロナイは その はたを「じゅうのはた」と名づけ、さおの 先に くりつけました。それから 地に ひれふして、たみが ずっと じゅうで いられるように いのりました。そうすれば たみは かみを さんびし、かみの しゆくふくを うけることが できるからです(アルマ 46:3-18 参照)。

今日の わたしたちには、自分の かぞくと しんこうが どれほど 大切かを 思い出させて くれる ものが あります。それは「家族——世界への宣言」です。その中の いちぶを しょうかい します。

「かぞくは かみの 子どもたちの えいえんの 行くすえに たいする そうぞうぬしの 計画の 中心を なすもの〔です〕。……かぞくは かみによって さだめられた ものです。■





右—イラストレイテュール・ホラン・ペイルス
左—イラストレイテュール・ドーマン

うた 歌と せいぐ

- 「家族は 永遠に」『子供の 歌集』 98
- アルマ46:3-18

かぞくの はたを つく 作ろう

かぞくを しょうちょうする はたを つく
 ために 紙か めのを よういします。マジックか
 クレヨンで 自分たち かぞくに とって
 大切なものを かきましょう。イエス・キ
 ストや 天のお父さまへの しんこう、
 または かぞくで いられることの
 しゆくふくに ついて、かぞくの 気も
 ちを あらわす ことばや いんよう
 ぶんを 書きそえて ください。

ミズーリ州での試練

ジェニファー・マディー

教会歴史で重要な場所を探検してみよう!

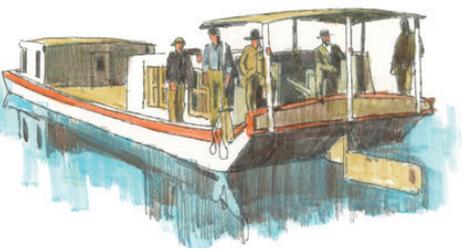
ジョセフ・スミスにとって、オハイオ州カートランドからミズーリ州インディペンデンスへの旅は、長くつらいものでした。荷車や、運河を走る船、それに乗合馬車に乗ることもありました。最後の250マイル(402km)は歩かなければなりません。それでも、シオンの町を建設するためにミズーリ州に行くように主がお命じになったので、ジョセフ・スミスはそれに従ったのです。

ほかの教会員たちは1831年にミズーリ州に到着し始めました。かれらは土地を耕し、家を立て、作物を収穫しました。

ミズーリ州インディペンデンスにどんどん教会員が移り住むにつれ、前からそこに住んでいた人々の中には、疑いやいかりをもつ人が現れ始めました。暴徒が聖徒の家をおそい、立ちのくように要求しました。



インディペンデンスの訪問者センターにあるこの展示物は、丸太小屋作りにいそがしく働く聖徒のすがたをさいげんしています。





ウィリアム・W・フェルブスはインディペンデンスで印刷屋を立ち上げて、新聞を発行しました。かれはまた、主からジョセフ・スミスにあたえられた啓示を収めた『いましめの書』の印刷にもたずさわりました。今その啓示は教義と聖約に収められています。



リバティーのかんごく

1838年の冬、ジョセフ・スミスとほかの5人の教会指導者たちは、うそのうたえによりたいほされて、リバティーのかんごくに連れて行かれてしまいました。かんごくは、暗く、不衛生で、非常に寒く、とらわれの身になっていた人々には温かい毛布やまともな食事があたえられませんでした。かんごくのかべは厚い石でできていました。上の階は看守とその家族の部屋、下の階は「土ろう」といわれる囚人用の部屋でした。上げぶただけが、1階への出入口となっていました。

預言者がかんごくにいる間に、主はかれに言われました。「人のなし得ることをおそれてはならない。とこしえにいつまでも、神はあなたとともにいるからである。」(教義と聖約 122:9)

教会は当時の石と新たに作られた石を使ってかんごくを再建しました。そしてその周りに訪問者センターを建てました。神の預言者がかんごくにいるときになぐさめの啓示を受けた場所を見に、今日たくさんの人々がおとずれています。

わたしたちのページ



メキシコにすむ3才のリカルド・Oはほうしするのがすきです。毎週土曜日にお父さんとお母さんは、あるたてもののそうじをします。そこでせいさん会がひらかれるのです。そのときリカルドは妹のオリアといっしょにはきそうじをしてりょうしんの手つだいをします。リカルドは教会だけでなく家でもえがおでほうしをします。

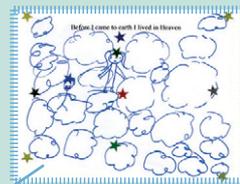
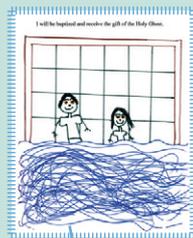


ロイ・P, 7才, カンボジア

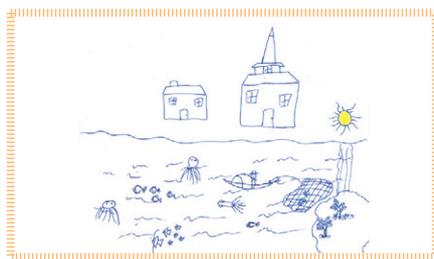
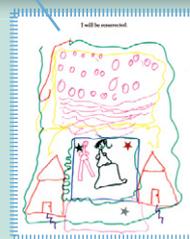


わたしは教会や初等協会に行くのがすきです。わたしは今読み方をならっています。モルモン書のお話が大好きです。妹とわたしはお母さんのお手つだいをするのがすきです。『リアホナ』のこどものページを読むことも大好きです。わたしたちはモルモン大管長やモルモンしまいのためにおいのりしています。

アリソン・A, 6才, ファナ・A, 3才, アルゼンチン



西インドしよとうのジャマイカにあるマンデビルちほうぶ、ジャンクションしぶにつどう初等協会の子どもたちは、すくいぬしについて学んでいます。そしてバプテスマをうけ、しんでんにさんにゆうするそなえをすることで、しゅのものはんにしたかうどりよくをしています。



グエン・L, 7才, カンボジア



ブラジルにすむ4才のマリア・Cは、せいさん会のお話で一言も間ちがえずに信仰箇条13じょうを全部あんしようしてみんなをおどろかせました。初等協会の会長は、マリアは一生けんめいにおいのりし、イエス・キリストをあかしすると言っています。

いりし、イエス・キリストをあかしすると言っています。



バプテスマでのレナートと かぞく

ある日初等協会ではブラジル・サンパウロしんでんをほうもんしました。しんでんのには今まで見たこともないほどきれいでした。しんでんの中でせいやくをかわすことによって、かぞくとえいえんにすむことができることを学びました。神殿会長がロビーでほくたちにお話をしてくれました。そこにはうつくしい絵がかざられていました。とてもあたたかくしあわせな気持ちがしました。それは学んだことがしんじつだとせいいいがあかしてくださったのだとお母さんが教えてくれました。しんでんはしゅの家だといふあかしをえました。

レナート・B, 8才, ブラジル



しんでんの外はたくさんのお花がさいていてもきれいです。でもしんでんのかぞくとむすびかためをうけたとき、中はもっときれいでした。

ニコラス・M, 5才 (コロンビア)

とくべつな しょうにん



じゅうに しと ていじんかい
十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

じゅうに しと ていじんかい
十二使徒定員会の かいいんは
イエス・キリストの
とくべつな しょうにんです。



かぞくれきしかつどうは なぜ そんなに 大切なのですか

よげんしゃ ジョセフ・スミスは つぎの ように
せんげんしました。「このよで もっとも 大きな
せきになは ししゃを さがしもとめること
です。」¹

かぞくれきしは すくいと しょうえいを えるために
とても 大切な かつどうです。

わたしたちは、自分の せんぞを さがし出し、せんぞ
のために ふくいんの すくいの ぎしきを 行うという
せいやくを ともなう せきになを おっています(かみさま
と やくそくしたので それを 行わなければなりません)。

わたしは 教会の わかい 人人に、エリヤの れい
について 学び、けいけんするよう すすすめます。²

わたしは みなさんが 学び、せんぞを さがし出
し、なくなった しんぞくのために、しゅの みやで
みかわりの バプテスマを 行う じゅんびを する
ように すすすめます。

みなさんが しんこうを もって この すすめに
したがうとき、みなさんの 心は せんぞに むかうで
しょう。

せんぞに たいする あいと かんしゃが ます
でしょう。

みなさんは 青少年の じだいにも しょうが
いに わたっても まもられるでしょう。

みなさんの すくいぬしについての あかし
と したがいたいという 気もちが 強くなり、
ふどうの もと なるでしょう(その 気もちを
ずっと もちつづけることが できます)。■

「しその 心は むかうであらう」【リアホナ】2011年11月ごう、
24-27を さんこうに しました。

注
1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(2007年)、
475
2. 教義と聖約2:1-2を見ましよう。



イラスト：アンタム・「リノ」



おもいで
**思い出の
つまった
しきもの**

たくさんのお話を1まいのしきものに
つつみこめることを知っていましたか。

ケイ・ティンブソン

じつわをもとに書かれました。

「わたしたちはしそんとして
あいつら人たをさがし、
名前と思い出をきろくできます。」
("Truth from Elijah,"
Children's Songbook, 90 - 91)

ケイティーは家の前の道を
スキップしながら角にある大
きなかしの木の方にむかって
行きました。その大きな木のそばに
はおばあちゃんの家があるのです。

いつものように、おばあちゃんはいまに
すわって色あざやかな細いぬのを
しずかにあんたりぬったりしていま
した。おばあちゃんの家のゆかはぴか
ぴかで、おばあちゃん手作りのきれいな
しきものがしいてあります。

ケイティーが入って行くと「あら、
いらっしやい」とおばあちゃんが言いま
した。すぐに二人はおばあちゃんの
言う「むかしのこと」について話しはじめ
ました。二人はいっしょに白黒のしゃ
しんを見ました。ケイティーはしんせき
の人たちがわかいころにきていた
ふくやかみがたを見るのがとくにすき
でした。

「あのころは今とはずいぶんちがって
いたわ。車もテレビもけいたい電話も
なかったのよ」とためいきまじりにおば
あちゃんが言います。

ケイティーはどこに行くにも歩いて
行かなければならないなんてそうぞうでき
ません。「おばあちゃんはどんなことを
するのが楽しかったの?」とケイティーが
聞きました。

「みんなで歌うのが楽しかったわねえ。
よる夜になるとピアノのまわりにあつ

まって大すきな歌を歌ったものよ。
こえ声がかれるほど歌ったこともあるわ。
それはそれはとても楽しかったわ。」

おばあちゃんはにわに目をやりました。
まるで年月をまきもどしてそのときの
こうけいを見つめているかのようでした。

おばあちゃんのひざから作りかけの
しきものがすべりおちました。ケイティーは
そのよこにこしを下ろしました。そし
てあんだあとをていねいにゆびで
ならしていききました。

「ずっと考えていたんだけどね。ケイ
ティーも自分でしきものをあんでみな
い?」とおばあちゃんがゆっくりと言いま
した。

ケイティーはとび上がって手をたたき
ました。

「すごくやってみたいわ、おばあちゃん!
今日からはじめられる?」

おばあちゃんはくすくすわらいながら
こう言いました。「あのね、まずやらな
くちゃいけないことがあるのよ。家に
かえ帰って細く切りさいてもいいよな
古いふくをあつめていらっしやい。」

ケイティーの方にからだをかたむけたおば
あちゃんの目はきらきらかがやいていま
した。そしてまるでひみつを教えるよう
にささやきながらこう言いました。

「じつはね、そのふくでしきものが
とくべつなものになるのよ。ふくのぬの
地をつかって作るから、しきものが
あなたの人生をもの語ってくれるの。
あんだころはそれぞれ自分の本の
1しょうみたいなものよ。古いふくの
ぬの地を見るたびに、そのふくをきて
行ったばしょやそのときしたことまで
思い出せるのよ。」

ケイティーは目を丸くして、おばあ
ちゃんがあんでいたしきものをゆびさし
ながらこう言いました。

「おばあちゃんはこのしきものにつ

かったぬのを見ると何もかも思い
だせるの?」

「もちろんよ。この赤いところはあなた
が生まれたときにわたしがきていた
ふくよ。あなたを少しでも近くで見たく
てしんせいじつのガラスのまどに
はなをおしつけていたのをおぼえている
わ。あなたはまだぜんしんほんのり
赤くてしわくちやさんだった。」おばあちゃん
はほほえみながらそう言いました。

ケイティーとおばあちゃんはわらいなが
ら、しきものにまつわる話をしてすご
しました。ケイティーはそのばん家に
帰るとすぐに、お母さんと二人でしき
もの作りにつかえそうな古いふくを
えらびました。

つぎの日、ケイティーはおばあちゃんの
家にふくをもって行きました。おばあ
ちゃんはぬのを長く細く切るほう
ほうや、それをあんでぬい合わせるほう
ほうをケイティーに教えてくれました。
毎日学校がおわると、ケイティーは
おばあちゃんの家に行ってしきものを
作りました。

少しずつしきものが出来上がっていき
ました。日がたつにつれてケイティーは
おばあちゃんの話がたくさんおぼえて
しまいました。時にはケイティーがおばあ
ちゃんに話してあげることもありました。

ある日、大すぎだったジーンズの青い
ぶぶんをあみこんだ後、ケイティーは色
とりどりのあみ目に手のひらを当てて
なでてみました。

「そろそろそのしきものも出来上がり
だと思わない?」おばあちゃんが自分の
手を休めて聞きました。

「うん、まだよ」とケイティーはほほえ
みながら答えました。ケイティーはおば
あちゃんと過ごすこの時間がいつ
までもつづけばいいと思っていたから
です。■

イラストレーター ケルリン

かぞくの お話 はなし こうかんごっこ

おばあちゃんと ケイティーは、おばあちゃんが つく 作る いろ 色あざやかな ひざかけ ひざかけを つう 通じて いろいろ いろいろな おも 思い出話を でばなし することができました (66 - 67 ページを見ましよう)。かぞくと おも 思い出話などを こ こうかんするのに やく やく だ 立つ ゲームを試してみましよう。



ひつようなもの——

- かたくて いろ 色の ちい ついた さ 小さな いく いくつか よう ようい し しましょう。 すく 少なくとも 6つ いろ の いろ 色を いろ そろえてください。 こ ボタンや いろ 色を い めった こ 小石、 あ あめなどが よ よいでしょう。
- ボタンなどを い 入れる ふ ふくろ

あそび方——

1. このページの した 下にある ひ ひょう いろ の こう こうもくごとに いろ 色を き きめて、「色」と か 書いてある ところ ところに いろ その色を か 書きこんでください。
2. かぞくで まる 丸くなって す すわります。 よう よういしておいた ボ ボタンなどを ふ ふくろに い 入れます。
3. ふ ふくろを とな となりの ひと 人に わ わたして い いきます。 みな みんな それ それ ぞ ぞれ じゅん じゅんばんが きた きたら ふ ふくろの なか 中から 一つ 一つ とり 出して その その いろ 色の こう こうもくに あ 合った はなし 話を し します。 ふ ふくろの なか 中が から 空になる まで まで つ つづけます。

「かぞくの はなし お話 こうかんごっこ」ひょう

それぞれの いろ 色で か かぞくが はなし 話した こと ことを お おぼえていますか。



いろ 色——

はなし 話——

	あなたの <small>しん</small> 親友について <small>はなし</small> 話してください。
	ゆうきを <small>だ</small> 出さなければ <small>なら</small> ならなかったのは <small>ど</small> どんなときですか。
	<small>いま</small> 今までに <small>や</small> やってしまった <small>お</small> おかしなことや、 <small>はず</small> はずかしいことを <small>はなし</small> 話してください。
	せいてんの <small>なか</small> 中で <small>す</small> すきな <small>はなし</small> 話は <small>ど</small> どれですか。それは <small>な</small> なぜですか。
	<small>が</small> 学校での <small>か</small> かつどうで <small>たの</small> 楽しかったことを <small>はなし</small> 話してください。
	もし <small>ど</small> どうぶつに <small>な</small> なれるとしたら <small>なに</small> 何に <small>な</small> なりたいですか。それは <small>な</small> なぜですか。

こんにちは。 エルサルバドルのエリカです。



わたしは支部の扶助協会のしまいから、ファミリーサーチのプログラムを使って名前を索引化する方法を学んでくれないかと言われました。わたしはぜひお手伝いしたいと思いました。母もわたしに手伝ってほしいと言うので、一緒に索引化のしかたを学び始めました。

最初に始めたとき、9人の名前を索引化するのに丸一日かかりました。でも、一生懸命練習してきたので、今では1日に300人の名前を索引化することができるようになりました。

わたしは宿題を終えると、名前の索引化をします。わたしにとって索引化の作業は、遊んだりテレビを見たりするのと同じくらい楽しいです。でも名前の索引化はそれ以上の目的があることを知っています。



わたしはエリカ・Zと言います。エルサルバドルのサンサルバドルに住んでいます。神殿の儀式のための名前を準備するのが大好きです。



霊界にいる2,000人以上のエルサルバドル出身者の神殿儀式のために名前を準備するのを手伝う機会を、天のお父様がわたしに祝福してくださったと知っています。

でしを よびあつめられた イエスさま

マルゴ・メイ
ルカ5:1-11より

シモンと アンデレは きょうだいで りょうしを していました。ある夜、二人は ^{よる} ^{ふたり} ^{ひと} ^{じゅう} 一ばん中 りょうしを しましたが 1ぴきも つれませんでした。



イエスさまは シモンの ふねに おられて、二人に ^{ふたり} もういちど ^{うみ} あみを 海に なげこむように ^い 言われました。そうして ^{ふたり} 二人が ^あ ^{さかな} あみを 引き上げると、あみは 魚で いっぱいになっているでは ありませんか。



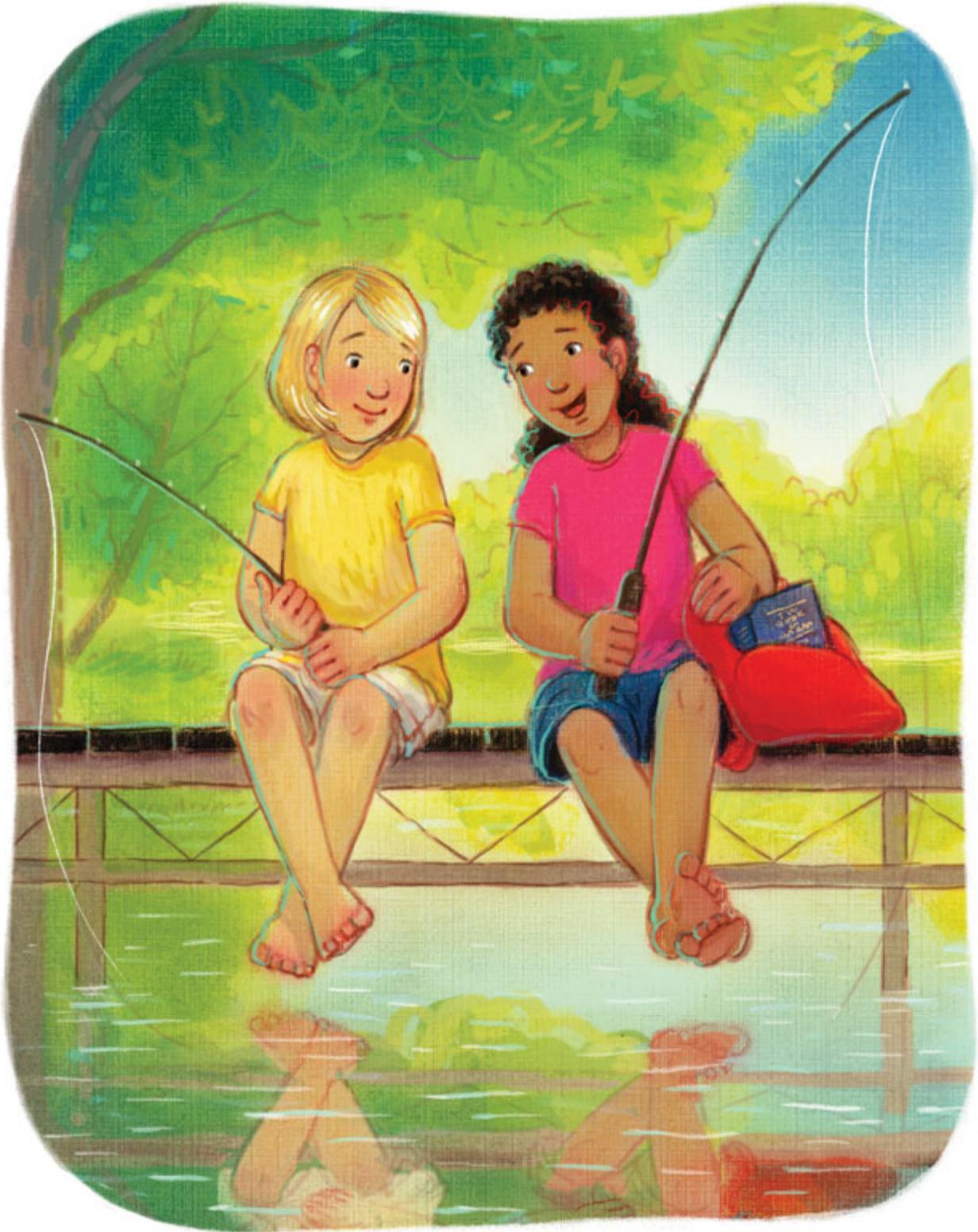


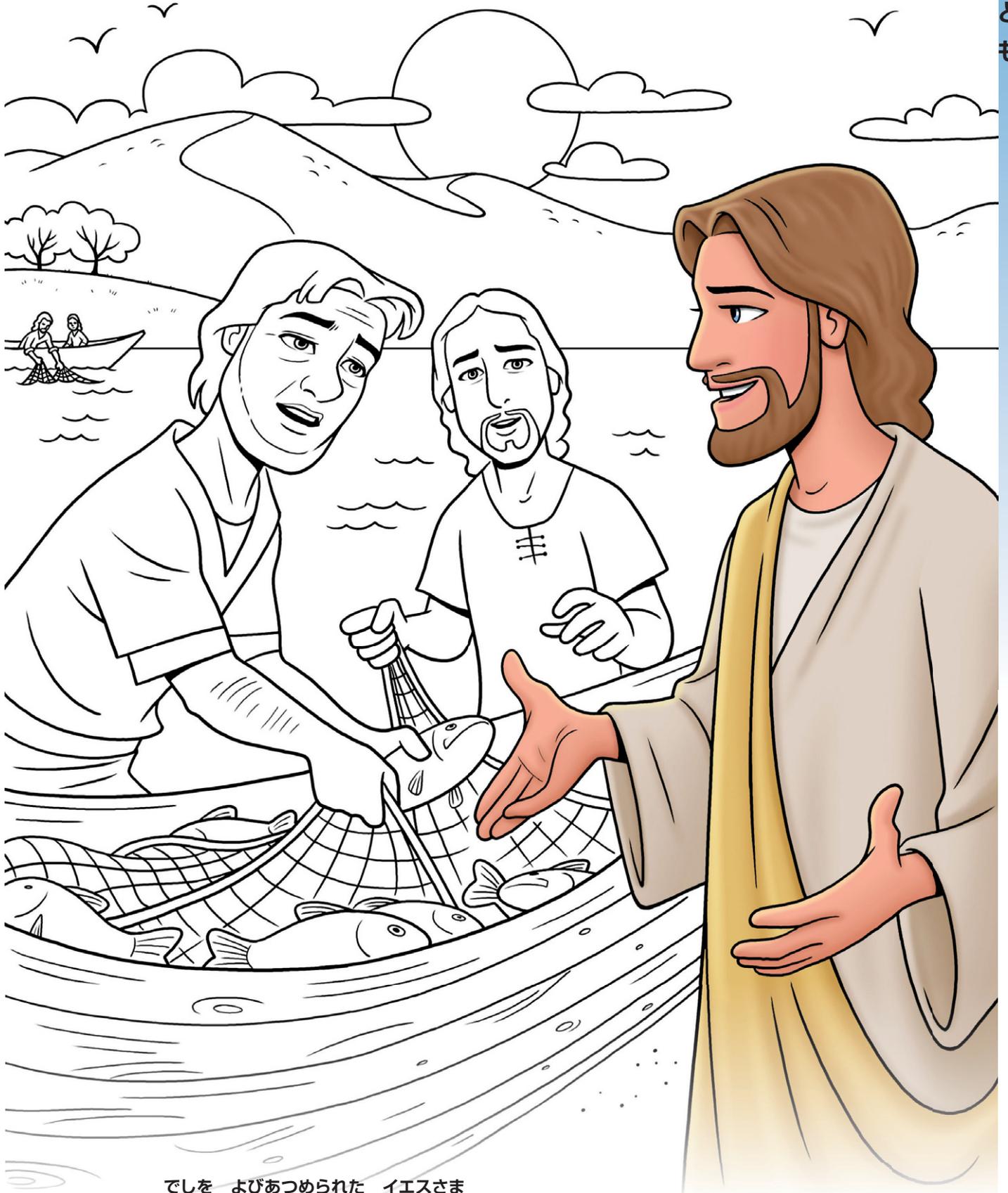
シモンと アンデレは 友人の ヤコブと ヨハネを よんで、あみに 入れた 魚を
 ふねに 引き上げるのを 手つだって もらいました。2そうの ふねに いっぱいになる
 ほど たくさんの 魚が とれました。イエスさまは かれらに、もし ご自分に したがう
 なら、魚より もっと よい ものを とれるようになると 言われました。人間を とる
 りょうしに なれるということです。

シモン、アンデレ、ヤコブ、
 ヨハネは、ふねのほかにも
 すべてを すてて、イエスさまの
 でしに なりました。かれらは
 イエスさまに したがう、イエス
 さまが 人人に ふくいんを
 つたえる たすけを しました。



あみで ^{さかな}魚をとる りょうしと ^{おな}同じように、わたしたちも よい もはんを
しめして イエさまについて ^{おし}教えることによって ^{ひとびと}人人を ふくいんに みちびく
たすけが できます。 わたしたちも ^{にんげん}人間をとる りょうしに なれるのです。





でしをよびあつめられた イエスさま

「イエスがシモンに言われた、『おそれることはない。今からあなたは人間をとるりょうしになるのだ。』
そこでかれらはいっさいをすててイエスにしたがった。』（ルカ5：10－11）

教会のニュース

教会のニュースおよび出来事についてもっとお知りになりたい方は news.lds.org にアクセスしてください。

新伝道部会長が召される

以下の伝道部会長が新たに召され、今月から各地に着任する。

伝道部	新伝道部会長
アラバマ州バーミングハム伝道部	リチャード・D・ハンクス
アンゴラ・ルアンダ伝道部	ダニー・L・メリル
アルゼンチン・ブエノスアイレス北伝道部	デビッド・S・エアー
アルゼンチン・ブエノスアイレス南伝道部	ラリー・L・サーグッド
アルゼンチン・コモドロ・リバダビア伝道部	マーク・F・ロジャーズ
アルゼンチン・コルドバ伝道部	ルーベン・V・アリオード
アルゼンチン・ボサダス伝道部	リー・R・ラビエール
アリゾナ州ギルバート伝道部	K・ブレット・ナットレス
アリゾナ州メサ伝道部	カーク・L・ジェンキンス
アリゾナ州スコッツデール伝道部	カール・R・スウィーニー
アリゾナ州テンピー伝道部	ジェームズ・L・トゥーン
アルメニア・エレバン伝道部	J・スティープン・カールソン
オーストラリア・ブリスベン伝道部	ロン・E・ヘンダーソン
オーストラリア・メルボルン伝道部	コーリー・H・マックスウェル
オーストラリア・シドニー北伝道部	フィリップ・F・ハウス
オーストラリア・シドニー南伝道部	ラリー・J・ルー
ボリビア・ラパス伝道部	フリアン・A・パラシオ
ボリビア・サンタクルス伝道部	ジェイソン・A・ウィラード
ボリビア・サンタクルス北伝道部	リチャード・C・ザンブラノ
ボツワナ・ハボロネ伝道部	メリル・A・ウィルソン
ブラジル・クリティーバ伝道部	アンダーソン・M・モンテイロ
ブラジル・クリティーバ南伝道部	レオネル・R・フェルナンデス
ブラジル・フォルタレザ東伝道部	カルロス・フスコ
ブラジル・ゴイアニア伝道部	デビッド・クセキ
ブラジル・ジョアンベソア伝道部	イザイアス・P・ノゲイラ
ブラジル・ジュイスデフォーラ伝道部	ルシアノ・カスカルディ
ブラジル・ロンドリーナ伝道部	C・アルベルト・デ・ジェナロ
ブラジル・ナタル伝道部	サウロ・ソアレス
ブラジル・ピラシカバ伝道部	ケネディー・F・カヌート

伝道部	新伝道部会長
ブラジル・リベイラン・プレート伝道部	マウロ・T・ブラム
ブラジル・サンタマリア伝道部	アダルトン・P・パレラ
ブラジル・サントス伝道部	セルソ・B・カブラル
ブラジル・サンパウロ西伝道部	ホセ・ルイス・デル・ゲルソ
カリフォルニア州ペイカーズフィールド伝道部	ジェームズ・M・ウィルソン
カリフォルニア州カールスバッド伝道部	ハル・C・ケンドリック
カリフォルニア州アーバイン伝道部	ボン・D・オーギル
カリフォルニア州ロングビーチ伝道部	ライアン・M・テュー
カリフォルニア州ロサンゼルス伝道部	デビッド・N・ウェードマン
カリフォルニア州ランチョ・クカモンガ伝道部	ブルース・E・ホブズ
カリフォルニア州レッドランズ伝道部	ダニエル・J・バンコット
カナダ・エドモントン伝道部	ラリー・G・マニオン
カナダ・モントリオール伝道部	ビクター・P・パトリック
チリ・アントファガスタ伝道部	クレーグ・L・ダルトン
チリ・コンセプション伝道部	ケント・J・アリンソン
チリ・ランカグア伝道部	トーマス・R・ワーン
チリ・サンティアゴ南伝道部	デビッド・L・クック
チリ・サンティアゴ西伝道部	ホセ・A・バレイロス
コロンビア・バランキヤ伝道部	ケント・R・サール
コロラド州デンバー南伝道部	J・ブレイク・マードック
コロラド州フォートコリンス伝道部	ケリー・W・ブラウン
チェコ/スロバキア伝道部	ジェームズ・W・マッコスキー三世
コンゴ民主共和国キンシャサ伝道部	W・ブライス・クック
エクアドル・グアヤキル南伝道部	マキシモ・C・トーレス
エクアドル・グアヤキル西伝道部	ホルヘ・デニス
エクアドル・キト北伝道部	ブライアン・A・リチャードソン
エルサルバドル・サンサルバドル東伝道部	デビッド・L・グレイジャー
エルサルバドル・サンサルバドル西／ベリーゼ伝道部	カイ・D・ヒンツェ
イギリス・リーズ伝道部	グラハム・ビルキントン
フロリダ州ジャクソンビル伝道部	ポール・W・クレーグ
フロリダ州オーランド伝道部	マイケル・J・ベリー
フロリダ州タラハシー伝道部	ブラッドリー・J・スミス
フロリダ州タンパ伝道部	マーク・D・キューシク
ジョージア州メーコン伝道部	ブレント・T・コットル
ガーナ・アクラ西伝道部	ノーマン・C・ヒル

伝道部	新伝道部会長
グアテマラ・コパン伝道部	ジョン・F・カーティス
グアテマラ・レタルレウ伝道部	ジョニー・F・ルイス
ハワイ州ホノルル伝道部	スティーブン・R・ワーナー
ホンジュラス・サンペドロ・スラ東伝道部	ノーマン・S・クレイン
ホンジュラス・サンペドロ・スラ西伝道部	ジェームズ・M・デスター
アイダホ州ポイン伝道部	ジョン・ワインダー
アイダホ州ナンバ伝道部	スチュアート・B・キャノン
アイダホ州ツインフォールズ伝道部	グレン・R・カーティス
イリノイ州シカゴ伝道部	ポール・S・ウッドベリー
イリノイ州シカゴ西伝道部	ジェリー・D・フェン
インド・バンガロール伝道部	デビッド・M・ベレット
インディアナ州インディアナポリス伝道部	スティーブン・C・クリーブランド
インドネシア・ジャカルタ伝道部	クリストファー・L・ドナルド
アイオワ州デモイン伝道部	ジョン・R・ジェンセン
イタリア・ミラノ伝道部	ブルース・L・ティブ
イタリア・ローマ伝道部	マイケル・ワドゥーブス
ジャマイカ・キングストン伝道部	ケビン・G・ブラウン
日本名古屋伝道部	山下和彦
日本東京南伝道部	和田貴志
カンザス州ウィチタ伝道部	マイケル・L・ベル
ケニヤ・ナイロビ伝道部	ゲーリー・C・ヒッケン
韓国テジョン伝道部	シン・ヨンイン
韓国ソウル南伝道部	マーシャル・R・モリス
リベリア・モンロビア伝道部	ロジャー・L・カーカム
マーシャル諸島マジュロ伝道部	トーマス・L・ワイア
メキシコ・アグアスカリエンテス伝道部	ホアン・ピジャレアル
メキシコ・カンクン伝道部	デール・B・カーカム・ジュニア
メキシコ・チワワ伝道部	ウリセス・チャベス
メキシコ・シウダードフアレス伝道部	ロドルフォ・デルベス
メキシコ・シウダードオブregon伝道部	マウリシオ・ムニベ
メキシコ・クリアカン伝道部	ヘスース・ベレス
メキシコ・メリダ伝道部	セルジオ・A・ガルシア
メキシコ・メキシコシティ・チャルコ伝道部	ジェラルド・D・クリックモア
メキシコ・メキシコシティ東伝道部	セルジオ・A・アナヤ
メキシコ・メキシコシティ北西伝道部	ブラッド・H・ホール
メキシコ・メキシコシティ西伝道部	ジョージ・F・ホワイトヘッド
メキシコ・モンテレー東伝道部	ラリー・C・バード

伝道部	新伝道部会長
メキシコ・パチューカ伝道部	アンドリュー・E・エグバート
メキシコ・ケレタロ伝道部	ハビエール・L・メホラダ
メキシコ・レイノサ伝道部	アベラルド・モラレス
メキシコ・サルティヨ伝道部	L・フェルナンド・ロドリゲス
メキシコ・ピヤエルモサ伝道部	イスラエル・G・モラレス
ミシガン州デトロイト伝道部	ノーラン・D・ガーバー
ミズーリ州セントルイス伝道部	トーマス・W・モーガン
モンゴル・ウランバートル伝道部	ジョセフ・P・ベンソン
ネバダ州ラスベガス西伝道部	マイケル・B・アランダー
ニューハンプシャー州マンチェスター伝道部	フィリップ・M・ストーカー
ニューメキシコ州アルバカーキ伝道部	スティーブン・J・ミラー
ニューヨーク州ロチェスター伝道部	アーサー・R・フランシス
ニュージールランド・ハミルトン伝道部	チャールズ・A・ラッド
ニカラグア・マナグア北伝道部	モンソップ・コラド
ニカラグア・マナグア南伝道部	ブライアン・G・ラッセル
ナイジェリア・ベニンシティ伝道部	アキングベイド・A・オジョ
ナイジェリア・エヌグ伝道部	フリーボディ・A・メンサ
ナイジェリア・ラゴス伝道部	リチャード・K・アハジェ
オハイオ州シンシナティ伝道部	ジョン・P・ポーター
オクラホマ州オクラホマシティ伝道部	スチュワート・R・ウォルケンホースト
オレゴン州セーラム伝道部	マイケル・R・サムエリアン
パナマ・パナマシティ伝道部	カーティス・カーマック
パプアニューギニア・ラエ伝道部	マーク・P・ベテル
パラグアイ・アスンシオン北伝道部	ガン・H・マクマリ
ペンシルベニア州フィラデルフィア伝道部	T・ゲーリー・アンダーソン
ペルー・アレキバ伝道部	リチャード・ゾプリスト
ペルー・クスコ伝道部	ロバート・C・ハーバートソン
ペルー・フアンカヨ伝道部	デビッド・Y・ヘンダーソン
ペルー・イキトス伝道部	アレハンドロ・ゴメス
ペルー・リマ北伝道部	ジョン・R・エリクソン
ペルー・リマ西伝道部	ブレイク・D・アーチボルド
ペルー・トルヒーヨ伝道部	D・カート・マーラー
フィリピン・バギオ伝道部	アンソニー・ジョン・パレドス
フィリピン・ブトゥアン伝道部	パスター・B・トーレス
フィリピン・カガヤンデオロ伝道部	アルベルト・C・ブルセコ
フィリピン・カワヤン伝道部	ジョージ・R・ラルフ
フィリピン・カビテ伝道部	ダグラス・C・タイ

伝道部	新伝道部会長
フィリピン・セブ東伝道部	リチャード・L・タナー
フィリピン・イロイロ伝道部	ジェイミー・R・アキノ
フィリピン・レガスピ伝道部	ホベンシオ・A・グアンゾン
フィリピン・ナガ伝道部	L・バリー・リーダー
フィリピン・ケソンシティー伝道部	カルロス・レピーヨ
フィリピン・ウルダネタ伝道部	ウィリアム・J・モナハン
ポーランド・ワルシャワ伝道部	スティーブン・C・エドグレン
プエルトリコ・サンファン伝道部	P・ノックス・スマート三世
ロシア・モスクワ伝道部	ゲーリー・E・ボーダース
ロシア・サマラ伝道部	マイケル・L・シュワブ
ロシア・エカテリンブルク伝道部	バル・J・クリステンセン
シエラレオネ・フリータウン伝道部	デビッド・B・オスラー
南アフリカ・ダーバン伝道部	ジョン・A・ザクリソン
台湾台中伝道部	カート・L・ブリッケンスタッフ
テキサス州フォートワース伝道部	ロドニー・A・エームズ
テキサス州マックアレン伝道部	フェルナンド・マルエンダ
テキサス州サンアントニオ伝道部	ジェームズ・E・スローター
トンガ・ヌクアロファ伝道部	レイトニ・M・トゥボウ
ウガンダ・カンバラ伝道部	ロバート・F・チャットフィールド
ウクライナ・ルビブ伝道部	ダニエル・E・ラティン
ウルグアイ・モンテビデオ西伝道部	トーマス・A・スミス
ユタ州ソルトレーク・シティー伝道部	スティーブン・W・ハンセン
ユタ州ソルトレーク・シティー東伝道部	ジョン・C・エバーハート
ユタ州ソルトレーク・シティー南伝道部	ロバート・E・チェインバース
ユタ州セントジョージ伝道部	ジョン・R・センター
ベネズエラ・バレンシア伝道部	ギレルモ・I・グアルディア
バージニア州チェサピーク伝道部	アラン・J・ベーカー
バージニア州リッチモンド伝道部	E・ブラッドリー・ウィルソン
ワシントンD.C. 北伝道部	ピーター・S・クック
ワシントン州エベレット伝道部	マーク・ボンナム
ワシントン州フェデラルウェイ伝道部	ロバート・I・イトン
ワシントン州ケネウィック伝道部	ボイド・S・ウェア
ワシントン州シアトル伝道部	崔 焯煥
ワシントン州バンクーバー伝道部	ダーリン・C・テラー
ウィスコンシン州ミルウォーキー伝道部	レイモンド・A・カトラー
ザンビア・ルサカ伝道部	リーフ・J・エリクソン

クック長老、 コートジボワールの 会員と求道者に語りかける

R・スコット・ロイド

Church News

2013年2月、十二使徒のクエンティン・L・クック長老がコートジボワールを訪問した。滞在中、神権指導者大会を管理し、会員や求道者との特別集会を開き、政府要人を訪問した。

七十人定員会会長会のL・ホイットニー・クレートン長老、アフリカ西地域会長である七十人のジョン・B・ディクソン長老、アフリカ西地域会長会第一顧問である七十人のジョセフ・W・シターティ長老がクック長老に同行した。

神権指導者大会と会員および求道者の集会に出席した合計数は9,693人であり、その中には619人の求道者が含まれていた。多くの会員は出席するために大きな犠牲を払った。コートジボワール・アビジャン伝道部ミーギ支部のバージニー・オウライ・トンゴ姉妹は、使徒に会うために家族で貯金したと言い、「ここまで来るのに12時間かかりましたが、とてもうれしいです」と語った。

大会に出席した多くの人が、すばらしい御霊を豊かに味わうことができたと報告している。ココディステーク・ドクイワードのレオン・コウアディオビショップは、「救い主に仕える偉大な使徒がわたしたちを訪れてくださったことを知っています」と語った。

1984年には、コートジボワールにはたった1家族しか会員がいなかったが、今では5つのステークと1つの地方部が存在する。

近年、コートジボワールの聖徒の忠実さは、家族歴史と神殿活動に顕著に表れている。コートジボワールの5つのステークのうち、3つのステークは、2012年に神殿の儀式のために家族の名前を提出した成人の割合が、教会全体で上位25に入る。教会のすべてのステークのうち、ココディステークは、神殿に名前を提出した成人の割合が最も高い。



2月、コートジボワールのアビジャンに集った多くの聖徒たちに語る、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老。

青少年も貢献している。索引検索作業をしているコートジボワールの青少年の割合は、教会の平均の2倍に上る。しかも、実際コンピューターやインターネットを個人で使える状況にある人は一人もなく、その作業をするのにステーキの家族歴史センターに行かなければならない。

会員たちは、家族歴史は福音生活の重要な一部であると教えられており、家族の名前を提出して準備し、長距離バスに揺られてガーナ・アクラ神殿に向かう。そして、一般的に

ほんの数人の名前ではなく、多くの死者の名前を引き受けて儀式を受ける。

クック長老とクレートン長老は、以下の4つの重要な事柄において前進するよう聖徒たちを励ました。主イエス・キリストへの信仰を増すこと、家族を強めること、積極的に人々と福音を分かち合うこと、家族歴史と神殿活動において果たしているすばらしい努力を継続することである。

フランシス・J・ モンソン姉妹が逝去

「初めてフランシスに会ったとき、自分にぴったりの人を見つけたことが分かりました。」¹ トーマス・S・モンソン大管長は二人の交際についてこう語っている。その思いが正しかったことは、夫とともに奉仕し、夫を支えたフランシス・ベバリー・ジョンソン・モンソンの生涯で繰り返し証明された。

2013年5月17日、モンソン姉妹は老衰のため、85年にわたるこの世の生涯を安らかに閉じた。

モンソン姉妹は脚光を浴びることを求めず、高齢者や病弱な人々を訪ねるモンソン大管長に度々同行した。彼女は、若くしてビショップに召された夫の力の源であり、1959年から1962年までカナダの伝道部を管理する夫とともに奉仕した。彼女の愛する「トミー」が中央幹部に召され、十二使徒定員会、大管長会で奉仕するようになり、さらに教会の大管長の召しを受けてきたこれまでの間、彼女は夫を支え続けた。

「母は父を心から愛し、父の才能と賜物^{たまもの}を理解していました。父を支持し、父がその才能を高められるよう協力することに喜びを感じていました」と、二人の娘であるアン・モンソン・ディブは語る。²

フランシスはフランツ・E・ジョンソンとヒルダ・ブース・ジョンソン夫妻の娘として1927年10月27日に生まれ、1948年10月7日にソルトレーク神殿でトーマス・S・モンソンと結婚した。扶助協会と初等協会^{そうそほ}で召しを受けて奉仕し、豊かな音楽の才能と優れたユーモアのセンスを持っていたが、彼女は妻や母、祖母や曾祖母^{そうそほ}であることが、何より大好きだった。

ディブ姉妹は母親についてこう述べている。「いつも話を聞いてくれて、自分が同じ立場ならこうするだろうということをまず助言してくれる人でした。……母の継続的な模範は……わたしの人生において最大の影響をもたらしてくれました。



2010年4月の総大会部会後のモンソン大管長夫妻。

母が何を信じ、何を信じ、ほかの人に何を期待するかについて、疑問の余地はありませんでした。末日聖徒として、クリスチャンとしてのあるべき姿を、母は見せてくれました。」³

モンソン大管長は妻について「わたしの教会の責任についてフランシスが不平を漏らしたことは一度もありません」と語り、次のように説明している。「静かで、驚くほど強い信仰を持つ女性です。」⁴ ■

注

1. トーマス・S・モンソン「豊かな祝福」『リアホナ』2008年5月号, 111
2. アン・M・ディブ「トーマス・S・モンソン大管長夫人、フランシス・J・モンソン姉妹が逝去」(2013年5月17日), mormonnewsroom.org
3. アン・M・ディブ, “Frances Monson: Through the Eyes of Daughter, Ann Monson Dibb” (Mormon Times video, 2013年5月12日), ksl.com
4. トーマス・S・モンソン, ジェフリー・R・ホルランド「トーマス・S・モンソン大管長——主の足跡をたどって」『リアホナ』2008年6月号付録8からの引用



ハイチにおける教会設立 30 周年を祝う記念碑の除幕式を管理する、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老（中央）。

ハイチにおいて、教会設立 30 周年を祝う

30 年前、当時十二使徒定員会会員であったトーマス・S・モンソン大管長はハイチを訪れ、回復された福音が宣べ伝えられるよう、その地を奉獻した。

十二使徒のニール・L・アンダーセン長老は最近、30 周年を祝うためにハイチを訪問した。アンダーセン長老は、ハイチにおける教会の設立を常に思い起こすための、記念碑の除幕式を管理した。除幕式に集った会員たちは、それに先立って収録されたモンソン大管長のメッセージを衛星放送で視聴した。

2012 年、教会は 100 件以上の災害に対応

末日聖徒イエス・キリスト教会は、毎年、自然災害や戦争、飢餓による被害を受けた世界中の人々に緊急援助を提供している。2012 年、教会は 52 개국における 104 件の災害で被災者となった人々に、数千キロもの食料や水、衣類、医療物資、衛生キット、またその他の援助物資を提供した。それに加えて、何千人もの会員がボランティアとして 130 万時間以上の奉仕をした。

教会が 2012 年に行った最大の災害援助は、合衆国東海岸を襲ったハリケーン・サンディーの被災者に対して行ったものだった。それに加え、教会は、日本、フィリピン、合衆国内のその他の地域、またシリアに対して大規模な援助を行った。

ファミリーツリー、一般の人々も利用可能に

長い間待たれていた教会のインターネットサイト、FamilySearch.org の利用が拡大し、2013 年 3 月、一般の人々も利用できるようになった。FamilySearch.org から無料でアクセスできる。

ファミリーツリーはこれまでの新しいファミリーサーチの後継サービスである。今までのファミリーツリーは教会の会員記録を持つ会員によるログインとパスワードがないと利用できなかった。

現在、一般の人々が FamilySearch.org にアクセスすると、「完全にオンラインで自分の家系図を作り始めることができ、自分の家族から始めて、亡くなった先祖までたどることができます」と、ファミリーサーチのマーケティングマネージャーであるポール・M・ノート兄弟は語る。

もっと熱心に努力する助けが得られます

わたしは『リアホナ』が大好きです。読むときに、とても良い気持ちになります。大学に持って行って、友達にプレゼントするのが好きです。記事を読むことで、善い人になり、伝道をし、正義を選ぶ助けが得られます。記事を研究するとき、毎日より善い人になろうとする自分、イエス・キリストにもっと熱心に従おうとする自分があることに気づきます。

アナスターシャ・ナブラシニコヴァ（ウクライナ）

霊的かつ物質的な羅針盤

『リアホナ』はわたしの証^{あかし}を強めてくれます。霊的にも物質的にも、羅針盤となっています。教会中央幹部の言葉を読むと、イエス・キリストに近くなれます。宣教師として、多くの改宗した聖徒たちの証を読むと、慰めを得、主のぶどう園でさらに効果的な働き人になる助けが得られます。

ゴムン長老（ベニン・コトノー伝道部）

記事の訂正

『リアホナ』2月号 27 ページに、ディマ・イワノフはロシア、ウラジオストク在住と記載されていましたが、実際は、ロシアのウラン・ウデに住んでいます。

「希望の道」 を一緒に歩く

教会機関誌

ラリーン・ポーター・ガント

ノープーにある「希望の道」を初めて歩いたのは早春のことでした。並木道を歩いていると、光は黄金色に輝き、影は暖かく感じられました。写真家として、わたしはシャッター速度と絞り値、そしてレンズにあふれる驚くべき光ばかり注意が向いていました。

しかし次第に、かつてこの道を歩いた自分の先祖のことが思い浮かんできて、胸がいっぱいになりました。最初に思いをはせたのは、2歳の息子がいたジャレドとコーネリアのことでした。この空気は肌を刺す冷たさでしたが、ジャレドの家族が西部への旅の間に経験した凍えるような厳しい寒さに比べれば何でもありませんでした。コーネリアはノープーからソルトレークに向かう途中で亡くなりました。涙に暮れながら息子を抱き上げ、旅を続けるジャレドの姿を想像しました。

彼らがその場にいるような感覚が消えてしまうのを恐れながら、わたしは涙でかすむ目で写真を撮り続けました。次に、若き日のサラのことが思い出されました。サラは愛する義母とともに、ノープーを去る最後の聖徒の一団に加わってこの町を出ました。あるとき、愛にあふれた天の御父は彼らに食物を与えるために、彼らの野営地にあふれるばかりのうずらを送られました。その後、彼らは大変な苦労をしながらも感謝の心をもって前進しました。

わたしは胸が熱くなりました。サラが自分と

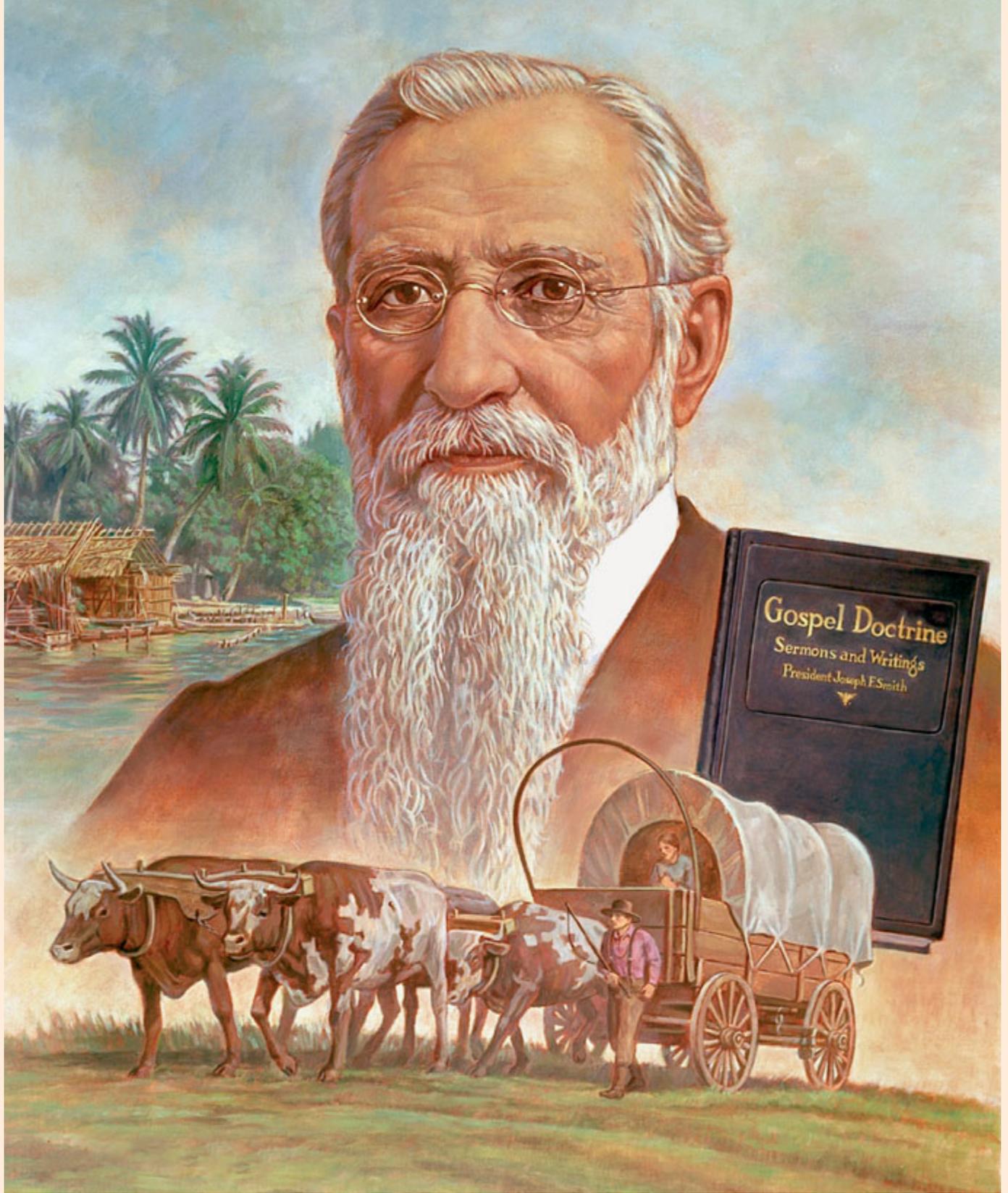


1846年2月、
末日聖徒の開拓者たちは
ノープーを追われました。
シオンで安らぎを
見いだすだろうという
希望に満ちあふれて、
彼らは現在
「希望の道」と呼ばれている
パーリー通りを歩いて行き、
ミシシッピ川を渡りました。

一緒に歩いているように感じました。ジャレドとコーネリアも、幼い息子を連れて一緒に歩いていました。光と影、過去と現在が重なり合っただけになる中で、この道、すなわちこの希望の道、この涙の道を、わたしたちは一緒に歩きました。うまく説明できませんが、彼らがともにいて、わたしの中に彼らと同じイエス・キリストの福音に対する愛が呼び覚まされました。わたしは自分の中に証の^{あかし}炎がともっているのは、彼らの中に同じ炎が燃えていたからであることを悟りました。世代から世代へと伝えられて、それぞれが次の世代のための土台を据えてきたのです。感謝の涙があふれてきました。

やがて、別の場所で写真を撮っていた夫が追いついて来ました。わたしは夫に寄り添い、自分が経験したことを伝えました。ノープーの聖徒たちと同じように、夫は彼の家族の中で最初に福音を信じた人でした。そして150年以上前にこの道を歩いた人々と同じように、信仰を自分の世代で絶えさせるつもりはありませんでした。夫とわたしの証は、今子供たちの心の中で燃えている証を^{はぐく}育んできました。ジャレドやコーネリア、サラの証が彼らの無数の子孫の証を育んできたように。

写真を撮るのも忘れて、夫とわたしはかつてこの道を歩いた人々のことを静かに思い起こしながら、「希望の道」の続きを一緒にゆっくりと歩きました。■



イラスト／ロバート・T・パレット

ジョセフ・F・スミス

ジョセフ・F・スミスが かぞくの かつていた 牛のむれをつれて、イリノイ しゅう ノープーから ユタしゅう ソルトレック・シティーまで たびをしたのは 7才のときでした。15才のとき、ハワイで でんどうを しました。後に 教会の 大管長として、ハワイ州ライエしんでんの けんせつちを ほうけんしました。ジョセフは、人人が まつじつせいとの しんこうを りかいすれば、教会を はくがいすることも 少なくなると しんじていました。教会が しんじていることを せつめいた かれの 教えは 『福音の教義』(“Gospel Doctrine”)とよばれる 本に おさめられています。



十 二使徒定員会の
M・ラッセル・バラード長老は
こう書いています。

「神の御霊^{みたま}によって信念が魂に固く結びつくと、
信仰はわたしたちに行動を促す力となり、
あらゆる思いや言葉、行いが
天に向かうようになります。
わたしたちは〔開拓者〕のように、
確信をもって力と導きを祈り求めます。
これこそが、信仰を込めて一歩ずつ歩む
ということなのです。」

「開拓者の信仰と勇気——今と昔」

16 ページ参照。